

前橋市教育施設長寿命化計画



平成 25 年 3 月

前橋市教育委員会

目 次

I	前橋市教育施設長寿命化計画の趣旨と目的	
1	趣旨	1
2	目的	1
II	前橋市教育施設長寿命化計画の位置づけ	
1	前橋市教育施設長寿命化計画の位置づけ	2
2	長寿命型改善事業の位置づけ	2
III	教育施設の現状	
1	教育施設の種類と内訳	3
2	教育施設の経過年数	4
3	教育施設整備費の推移	5
IV	長寿命化に関する基本方針	
1	建物の使用目標年数について	6
2	長寿命化に関する基本方針	6
V	長寿命型改善事業の実施	
1	長寿命型改善事業の実施方針	8
2	長寿命型改善事業の取り組み	9
VI	各施設の現状と施設整備	
1	共同調理場	11
2	学校	14
3	社会体育（スポーツ）施設	29
4	公民館	33
5	その他の施設	37
VII	教育施設の充実を目指して	38

I 前橋市教育施設長寿命化計画の趣旨と目的

1 趣旨

本市では、道路、橋、上下水道などの社会基盤や庁舎、消防署、市営住宅、保育所、小・中学校、公民館、社会体育館などの公共施設を数多く保有しています。これらの多くは、昭和 40 年代以降の高度経済成長期に急速に整備されてきたことから老朽化が進んでおり、一斉に建替え時期を迎えることが予想されています。

本市教育委員会では、このうち小・中学校、公民館、社会体育館などの地域コミュニティを支えるために必要な教育施設を所管し、施設の維持管理・整備を行っています。

教育施設全体のうち、学校が 87.1%と多くを占めています。本市では、これまで昭和 40 年代以降の児童生徒の急増期に、老朽化した木造校舎を鉄筋コンクリート造に建替え、教室を増やすとともに、新たな学校を建設して必要な教室の確保に努めてきました。その後、昭和 60 年代以降の児童生徒の減少期を経て、現在では小規模校化が進んでおり、適正規模・適正配置による学校の統廃合が検討されるなど学校を取り巻く状況は大きく変化をしています。

こうしたなかで、昭和 40 年代以降に建設された学校が一斉に建替え時期を迎え、老朽化対策が必要になっています。老朽化対策は、全国的な課題となっており、文部科学省でも「学校施設老朽化対策ビジョン（仮称）」を提言するなど取り組みが始められています。

また、本市においても今後は人口の減少が予測されており、少子高齢化の進展による人口構造の変化として、年少人口及び生産年齢人口が減少し、老年人口が増加していく傾向が推計されています。

この人口構造変化により、本市の財政の歳出面では社会福祉関連分野が増加し、歳入面では人口や生産年齢人口の減少による税収の減少といった影響をもたらすことから、一層厳しい財政状況となることが予想されます。

数多くの施設を継続的に維持していくためには応分の費用が必要ですが、経年劣化による補修費用だけでなく、特に建替えには多額な費用が必要になります。

施設の建替えが必要になる理由は様々ですが、構造体の老朽化のほかに、部分的な部位の機能低下や設備機器の老朽化、利便性を向上させるためなどの理由により建替えが行われることがあります。今後は、現有施設をできるだけ長期間使用する工夫に努め、施設整備にかかるコストを総合的に抑制していくといった考え方に転換していく必要があります。

2 目的

施設の長寿命化により、ライフサイクルコストの縮減、財政負担の平準化を図ることを目的とします。

建物の長寿命化に伴い、これまでの対症療法的な維持管理から予防保全的な維持管理へ転換し、建物の機能や設備を常に良好な状態に保ちます。また、建物の使用年数向上のため、長寿命型改善事業を定めてライフサイクルコストの縮減と財政負担の平準化を目指します。

Ⅱ 前橋市教育施設長寿命化計画の位置づけ

1 前橋市教育施設長寿命化計画の位置づけ

本市では、持続可能な都市づくりを進めるため、「生命都市いきいき前橋」を将来都市像とする「第六次前橋市総合計画」を平成20年3月に策定しました。

第六次前橋市総合計画に盛り込んだ事業を着実に実施するため行財政改革方針「前橋市行財政改革推進計画」では、「市有施設について、利用者の安全性の確保と効率的な施設管理を行うため、施設保全計画（長寿命化計画）を策定し、計画的な更新・改修を行い、現有施設の長寿命化を図る。」ことを明記し、「施設の長寿命化」を施策に掲げています。

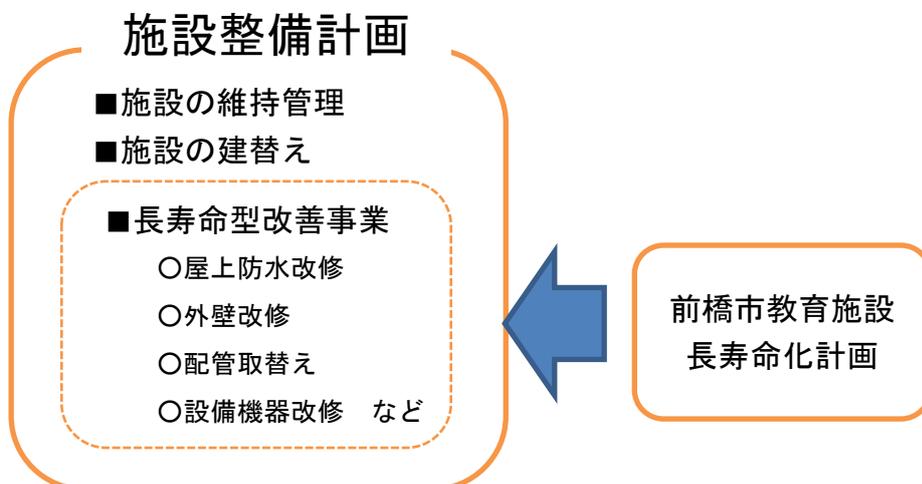
なお、平成25年度からの新たな「前橋市行財政改革推進計画」では、「ファシリティマネジメントの推進」を大きな柱として位置づける予定であり、「前橋市教育施設長寿命化計画」は、それに含まれるものです。



2 長寿命型改善事業の位置づけ

教育施設の整備は、それぞれの施設を所管する課において、施設整備計画を策定して行っています。

その施設整備計画に、「前橋市教育施設長寿命化計画」を推進するための「長寿命型改善事業」を位置づけて取り組んでいきます。

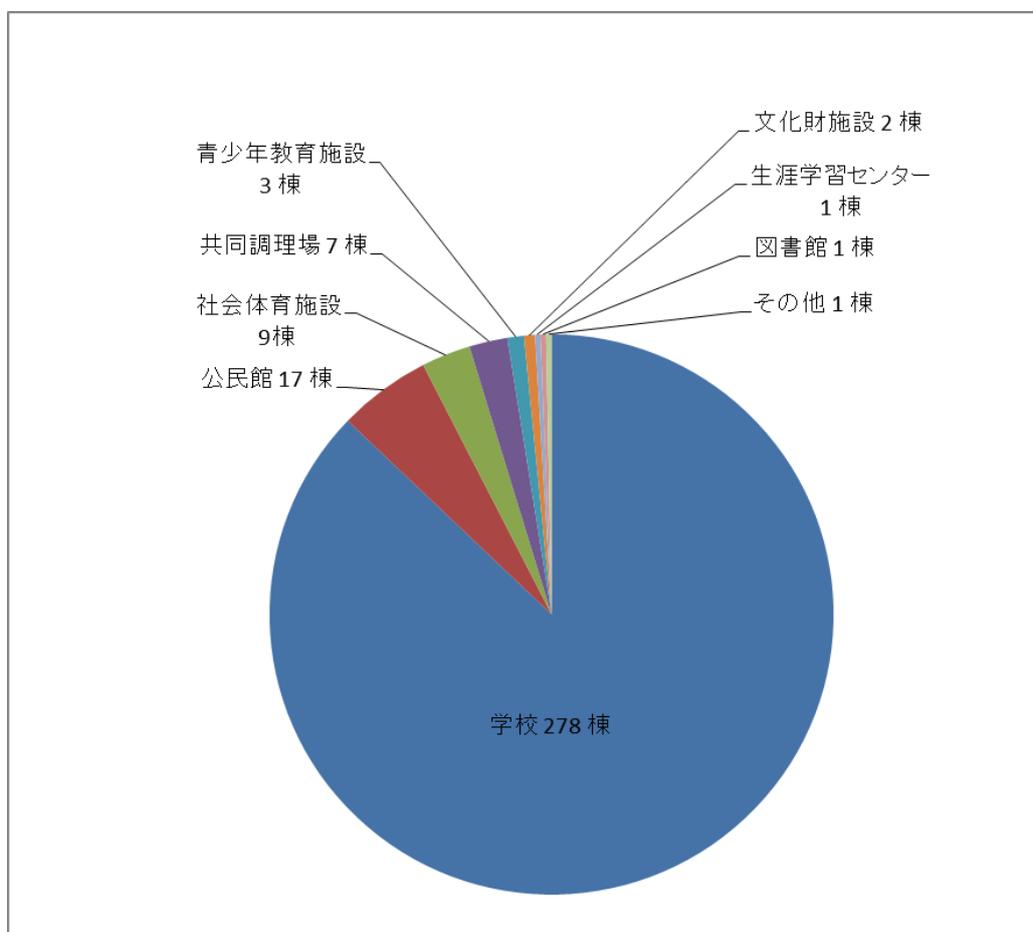


Ⅲ 教育施設の現状

1 教育施設の種類と内訳

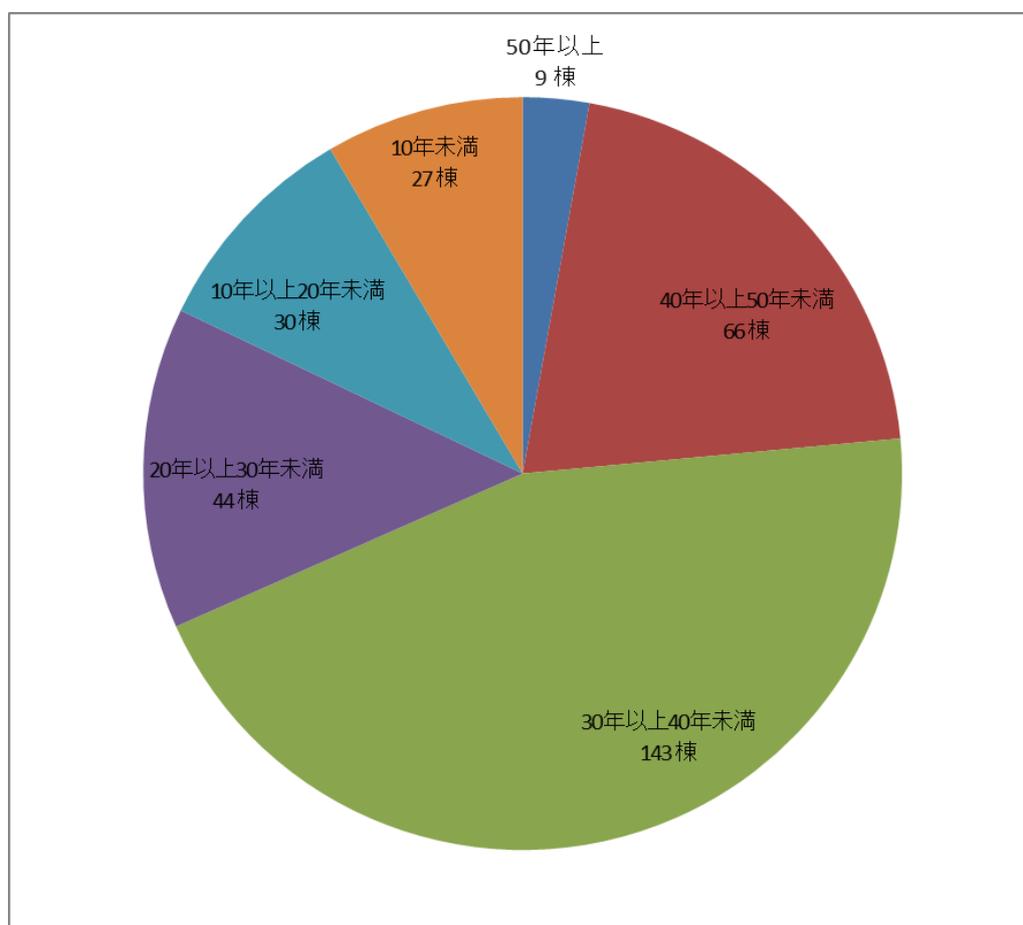
施設種類	棟数	延べ床面積 (㎡)	棟数割合
学校	278	434,677	87.1%
公民館	17	23,677	5.3%
社会体育施設	9	27,329	2.8%
共同調理場	7	11,207	2.2%
青少年教育施設	3	3,563	0.9%
文化財施設	2	1,480	0.6%
生涯学習センター	1	7,971	0.3%
図書館	1	4,765	0.3%
その他	1	406	0.3%
合計	319	515,075	100.0%

注) 長寿命化に適さない、小規模建物(概ね200㎡未満)や文化財建物(臨江閣など)及び複合施設(中央公民館、こども図書館など)は含んでいません。



2 教育施設の経過年数

経過年数	棟数	延べ床面積 (㎡)	棟数割合
50年以上	9	20,007	2.8%
40年以上 50年未満	66	104,146	20.7%
30年以上 40年未満	143	229,813	44.8%
20年以上 30年未満	44	50,204	13.8%
10年以上 20年未満	30	55,652	9.4%
10年未満	27	55,253	8.5%
合 計	319	515,075	100.0%



3 教育施設整備費の推移

平成 23 年度の教育費は、約 166.2 億円（一般会計歳出の 12%）で、うち教育施設の維持管理・整備にかかる工事費は約 46.1 億円でした。そのうち、学校の維持管理・整備にかかる工事費が 32.1 億円と 69.6%を占めています。

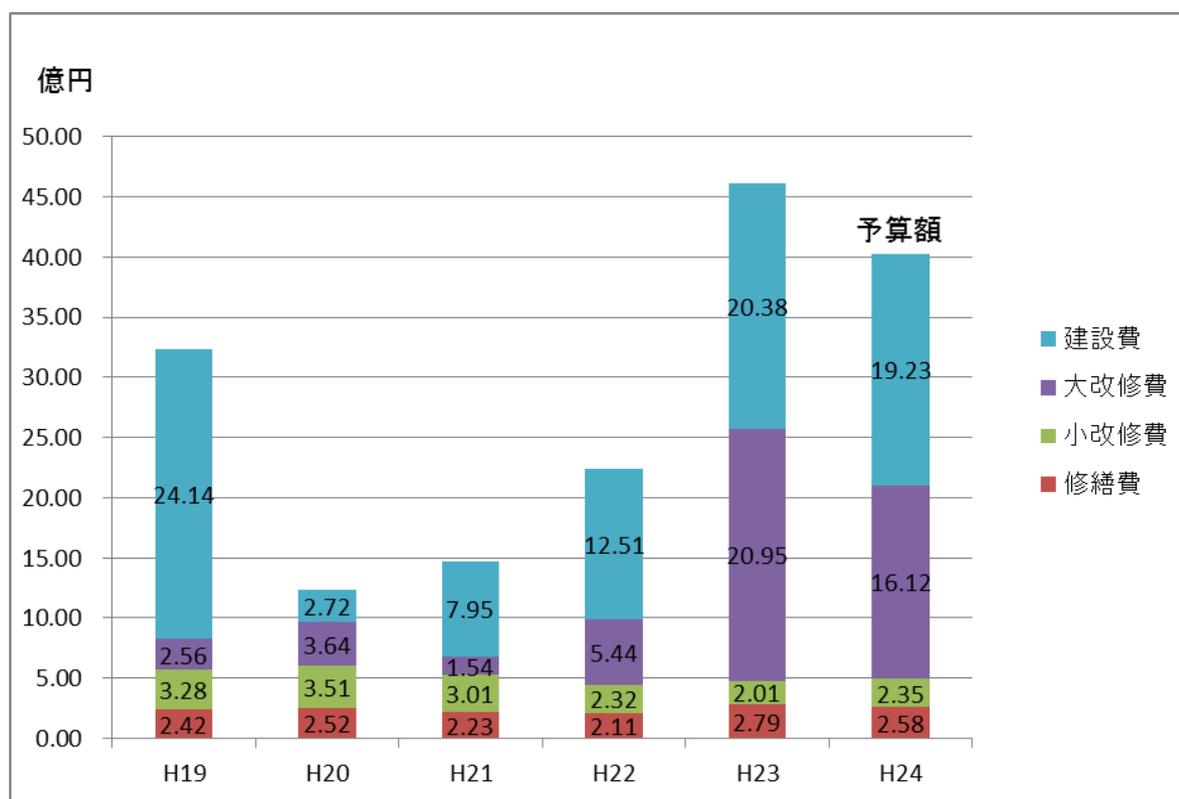
歳出推移は、建物の修繕費、小改修費については毎年度ほぼ一定額で推移していますが、平成 23 年度以降は大改修費が大きく伸びています。

平成 23 年度の主な内訳としては、大改修費に小中学校の普通教室エアコン設置費約 10.4 億円、建設費にみずき中校舎等新築約 7.3 億円、総社公民館建替え約 3.2 億円、児童文化センター建替え約 7.9 億円がありました。

教育施設整備費推移

単位：億円

	H19	H20	H21	H22	H23	H24(予算額)
建設費	24.14	2.72	7.95	12.51	20.38	19.23
大改修費（注）	2.56	3.64	1.54	5.44	20.95	16.12
小改修費（注）	3.28	3.51	3.01	2.32	2.01	2.35
修繕費	2.42	2.52	2.23	2.11	2.79	2.58
合計	32.40	12.39	14.74	22.39	46.14	40.28



注) 大改修：施設の機能を向上させる改修（例：耐震補強、学校トイレ改造など）

小改修：施設の維持管理とした改修（例：プールサイド塗装、屋上防水改修など）として区分しています。

IV 長寿命化に関する基本方針

1 建物の使用目標年数について

建物が何年使用できるかについては、「法定耐用年数」が用いられることがあります。

「法定耐用年数」は、「減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第一五号）」で定められていますが、減価償却のための年数であり、建物の物理的な使用可能年数とは異なります。

建築工事標準仕様書（JASS5鉄筋コンクリート工事 2009年・日本建築学会）によると、構造体の供用期間を4水準に分類し、標準供用仕様のコンクリートではおよそ65年、長期供用仕様のコンクリートではおよそ100年としています。

本市では、これまで「標準供用仕様」で施工しています。

したがって、鉄筋コンクリート造の既存建物の目標使用年数を原則65年としました。また、鉄骨造の建物については、「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」、「これまでの建替え実績年数」ならびに「鉄筋コンクリート造の耐用年数」などを勘案し、原則45年としました。

構造	使用目標年数
鉄筋コンクリート造	65年
鉄骨造	45年

2 長寿命化に関する基本方針

長寿命化にあたっては、十分な老朽化対策が必要です。老朽化対策をせずに放置すると外壁モルタルの落下など安全性に関わる不具合が生じたり、電気設備、給排水設備の不具合により建物が使用できなくなる恐れがあります。また、屋根、壁などからの漏水を放置すれば、構造体の劣化を招き長期使用ができなくなる恐れもあります。

教育施設の長寿命化にあたっては、(1)点検の実施、(2) 予防保全、(3) ライフサイクルコストの縮減が求められます。

(1) ストックの状態の把握・日常的な維持管理

教育施設は、地域コミュニティや防災の拠点としても重要な役割を担っています。また、教育施設のうち多くを占める学校は、子どもたちの学習・生活の場として、十分な安全性、防災性、防犯性や衛生的な環境を備えた安全・安心なものでなくてはなりません。

建物の老朽化や設備劣化による事故等を未然に防ぐことが求められていることから、日常的な保守点検や建築基準法、消防法などの法で定められた定期点検の実施によって、効率的な維持管理に努めます。

(2) 構造体の劣化に関する部位の改修

鉄筋コンクリート造建築物の劣化原因のひとつとして、コンクリート中性化、鉄筋腐食が挙げられます。

コンクリート中性化と鉄筋腐食は密接な関係があり、建築当初はアルカリ性であるコンクリートが鉄

筋の発錆を防いでいますが、コンクリートが空気中の炭酸ガスと反応し中性化が進むと鉄筋を腐食させてしまいます。鉄筋は錆びると体積が膨張し、コンクリートにひび割れを発生させます。そして一旦ひび割れが発生するとそこから水が浸入し、さらに錆びが進むという悪循環が起きてしまいます。

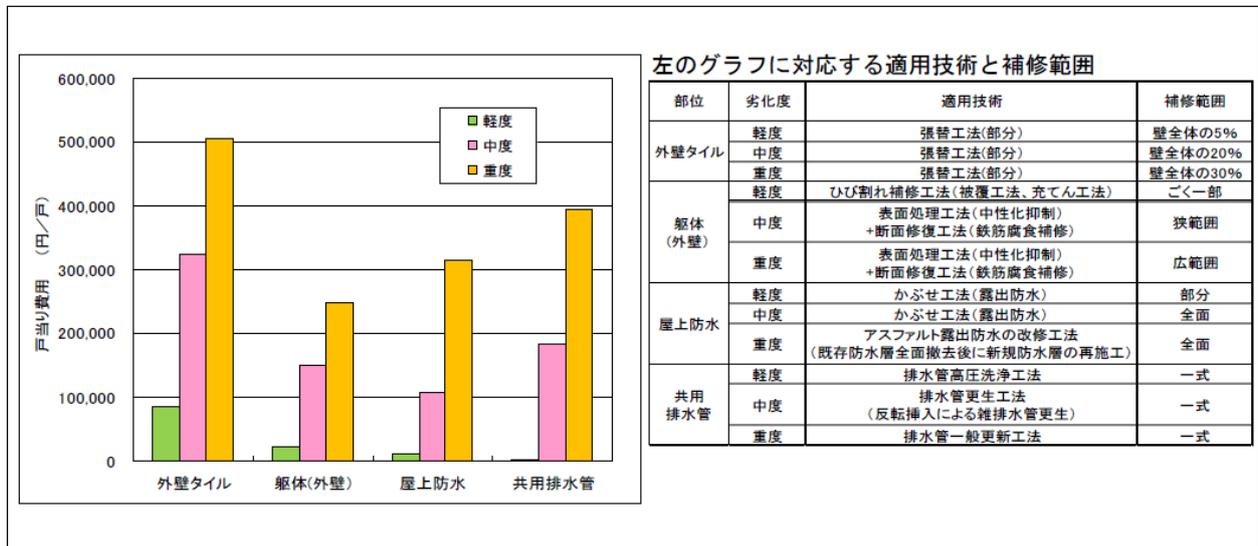
こうした現象が生じないよう、屋上防水改修、外壁改修、配管取り替え等により、構造体の保護に関わる改修を「長寿命型改善事業」として重点的かつ計画的に行います。

(3) ライフサイクルコストの縮減

対処療法型の維持管理から、予防保全的な維持管理及び耐久性の向上等を図る改善を実施し、建物の長寿命化を図ることにより、ライフサイクルコストの縮減を図ります。

〈予防保全と事後保全のコスト比較（イメージ）〉

(参考)劣化度に対して適用される工法による概算改修工事費の試算(マンション等共同住宅の場合)※



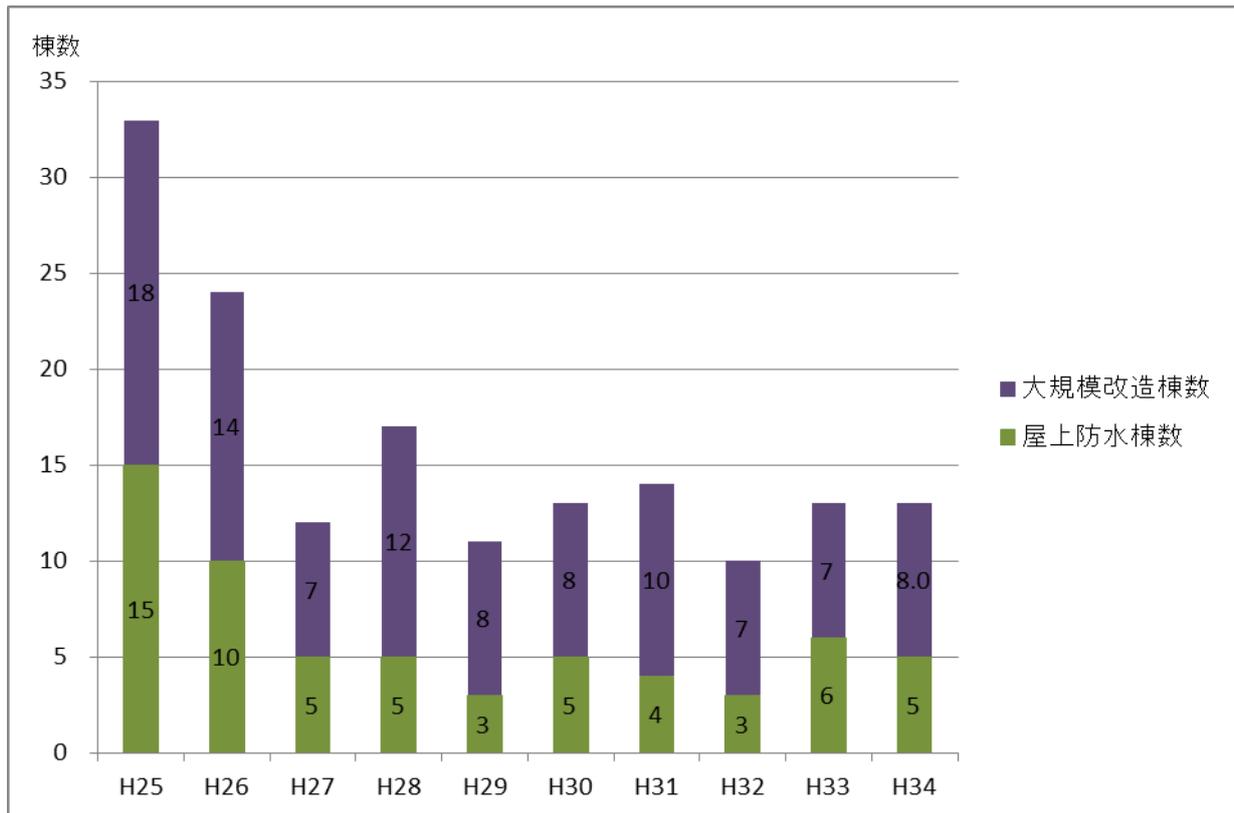
※国土交通省「持続可能社会における既存共同住宅ストックの再生に向けた勉強会(第3回)(平成24年5月16日開催)」
 “資料2-5共同住宅の再生のための技術(耐久性・耐用性)2劣化状況に応じた修繕・改修技術の適用⑤劣化状況による改修工事費の比較”より抜粋

2 長寿命型改善事業の取り組み

教育施設の整備は、それぞれの施設を所管する課において、施設整備計画を策定して行っています。その施設整備計画に「長寿命型改善事業の実施方針」に基づき、「長寿命型改善事業」を位置づけて取り組んでいきます。

期間は、平成25年度から平成34年度までの10年間とし、5年後の平成30年度に見直しを行います。

〈平成25年度から平成34年度に計画している主な「長寿命型改善事業」〉



施設種類	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
学校	体育館大規模改造		校舎大規模改造							
社会体育施設		市民体育館大規模改造								
公民館		大規模改造			大規模改造		大規模改造			
生涯学習センター									大規模改造	

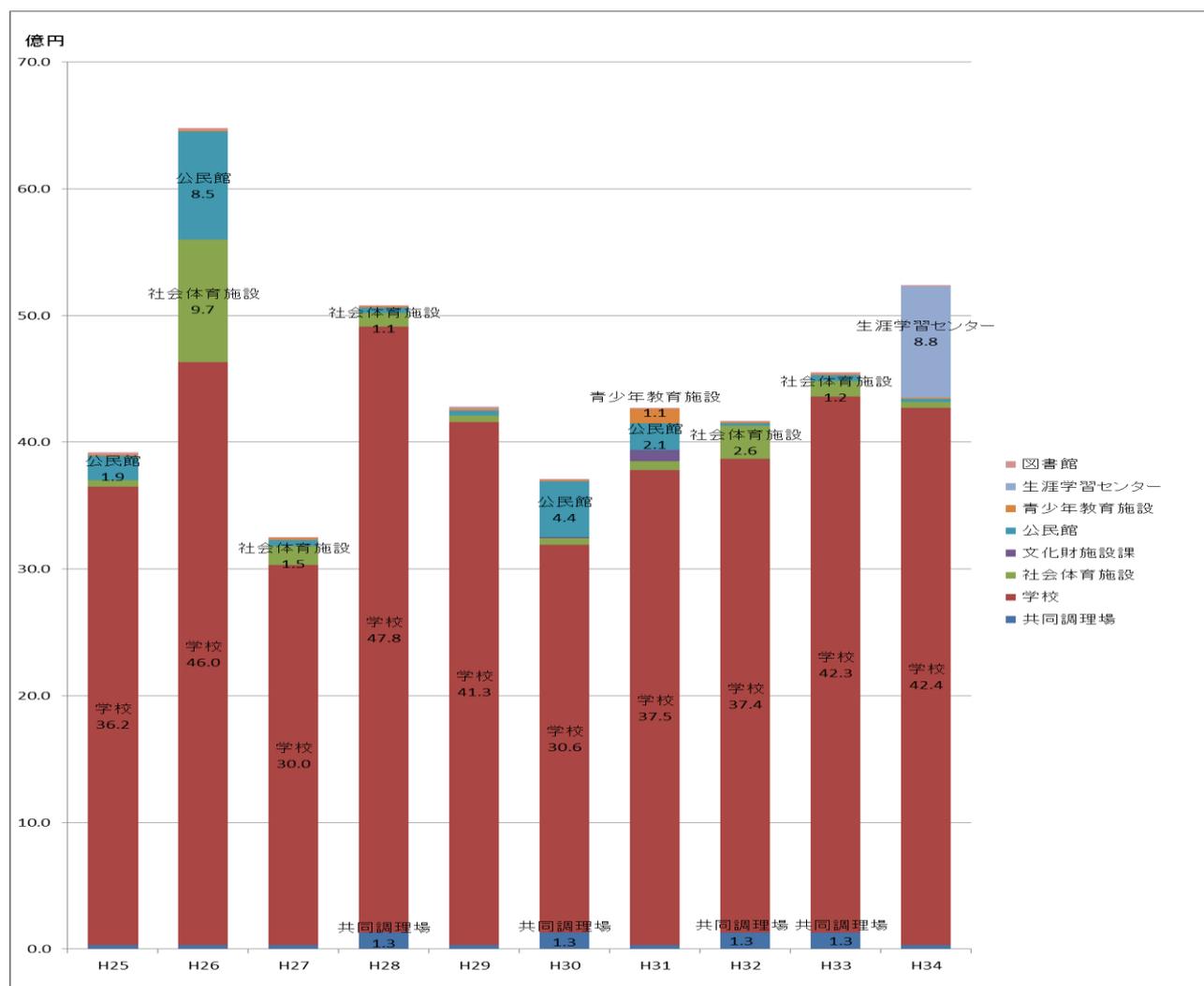
〈施設整備計画（各施設整備計画集計）〉

単位：棟、億円

年度	修繕費	小改修費	長寿命型改善事業				改築		合計
			屋上防水		大規模改造		棟数	改築費	
			棟数	改修費	棟数	改造費			
H25	2.8	2.9	15	0.8	18	15.8	9	16.9	39.2
H26	2.8	2.9	10	0.7	14	23.3	3	35.1	64.8
H27	2.8	2.9	5	0.2	7	14.8	5	11.8	32.5
H28	2.8	2.9	5	0.3	12	20.7	3	24.1	50.8
H29	2.8	2.9	3	0.4	8	19.1	3	17.6	42.8
H30	2.8	2.9	5	0.3	8	16.1	4	15.0	37.1
H31	2.8	2.9	4	0.5	10	21.6	4	14.9	42.7
H32	2.8	2.9	3	0.2	7	13.0	4	22.8	41.7
H33	2.8	2.9	6	1.2	7	14.8	3	23.8	45.5
H34	2.8	2.9	5	0.4	8	22.4	3	23.9	52.4
合計	28.0	29.0	61	5.0	99	181.6	41	205.9	449.5

〈施設別歳出見込み（各施設整備計画集計）〉

単位：億円



VI 各施設の現状と施設整備

共同調理場

本市の学校給食は、市立学校（小中学校、養護学校、幼稚園）72校4園を対象に、市内7か所の共同調理場で実施しています。各共同調理場では、一日に約3万食の給食を調理しており、児童生徒、教職員等に提供しています。

共同調理場運営にあたっては、まず、第一に安全安心な学校給食の提供が求められることから、施設や設備についても、衛生管理の徹底が求められます。こうしたことから、共同調理場としても、建物の老朽化はもとより、衛生管理的な側面からの施設管理が必要となります。

従って、共同調理場の建替えについては、建物そのものの構造やその耐用年数からの検討だけではなく、施設内に配置されている調理器具等の調理設備の耐用年数や調理場の調理方式、衛生管理方式等のその時々衛生管理基準に照らし合わせた検討も行っていく必要があります。

共同調理場に配置されている設備には、大きく分けて調理設備と洗浄設備があります。それぞれ大型のものでは、揚げ物機、焼物機、煮炊き用大釜があります。また、洗浄設備としては、食缶洗浄機、トレー洗浄機、コンテナ洗浄機があります。これら大型の設備は、耐用年数が約15年となっており、それを目安に入替えを行っていく必要があります。これを数年かけて入替えていくことを計画では想定しています。また、これら大型設備を2回入替える35年を、共同調理場の建替えの一つの目安とすることで、その時代にあった衛生管理方式や調理方式への対応もでき、安全安心な学校給食の提供につながります。

建替えについては、数年をかけて計画し、実施していきます。しかし、建替えには多大な経費が必要となることから、これまでも様々な工夫をしてきました。平成23年度には、より効果的で効率的な運営上の工夫をすることで、建替え予定であった中央共同調理場を廃止しました。対象配送校を他の調理場に分散することで、引き続き安全安心な学校給食の実施が可能であることが確認できたことから、大きく経費の節減を図ることができました。

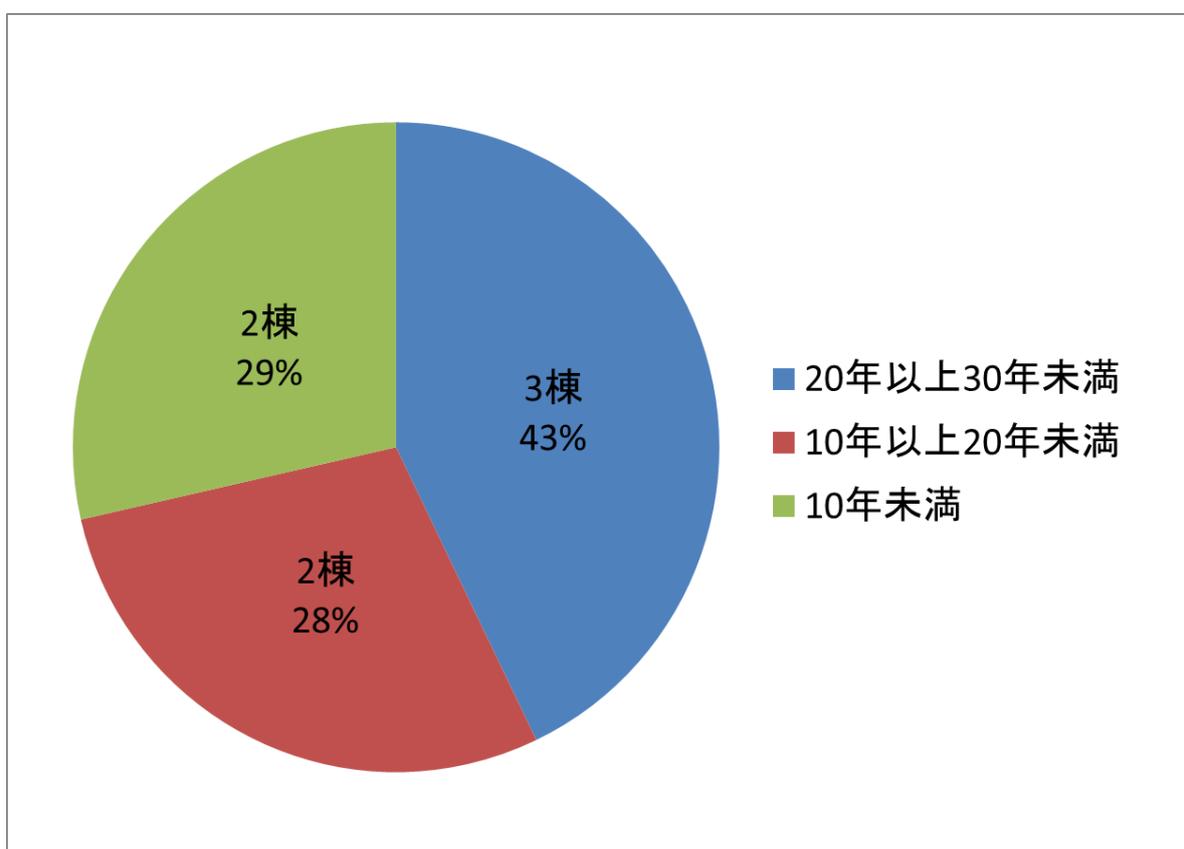
今後も、共同調理場運営にあたっては、安全安心な学校給食の提供はもとより、より効果的で効率的な運営も視野に入れて、調理場の効率的な配置についても検討します。各共同調理場の建替え等については、長寿命化計画として位置づけながらも、同時に、引き続き、施設の統廃合についても検討していきます。

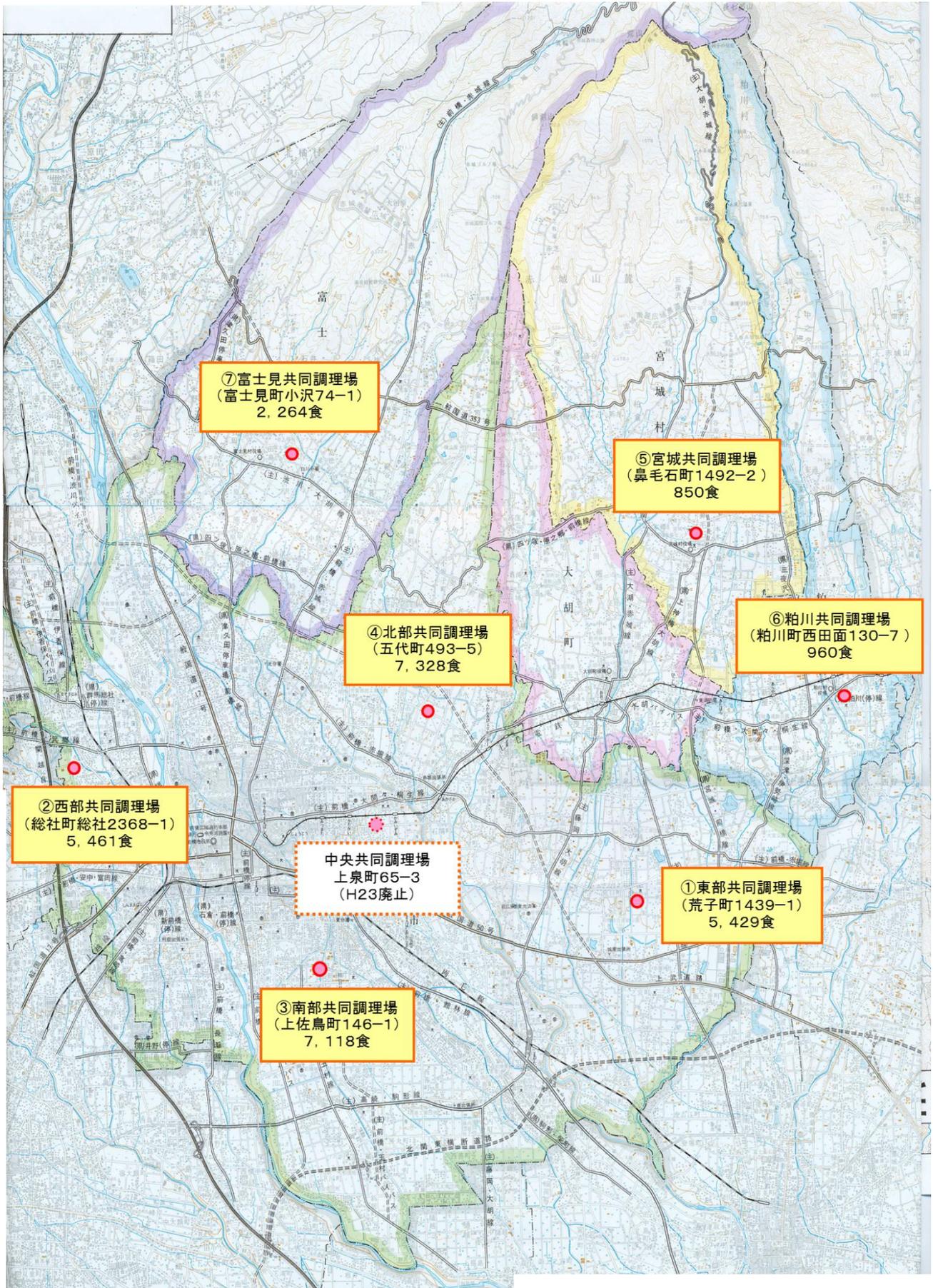
前橋市の学校給食共同調理場（平成 24 年 5 月 1 日現在）

共同調理場名	開設年月	建物面積(m ²)	受配校	学級数	対象調理食数			職員数 (臨時は除く)
					児童生徒	教職員	合計	
①東 部	H 6. 4	1, 741	15 校	213	5, 049	380	5, 429	20
②西 部	H 元. 1	1, 603	13 校	192	5, 124	337	5, 461	20
③南 部	H14. 8	2, 495	18 校	258	6, 658	460	7, 118	※ 8
④北 部	H19. 8	2, 984	15 校 3 園	256	6, 870	458	7, 328	28
⑤宮 城	H16. 1	561	2 校 1 園	32	790	60	850	6
⑥粕 川	H4. 2	739	3 校	37	892	68	960	6
⑦富士見	H17. 4	1, 399	6 校	79	2, 120	144	2, 264	9
計			72 校 4 園	1, 067	27, 503	1, 907	29, 410	97

※南部共同調理場は調理業務民間委託。

共同調理場の経過年数





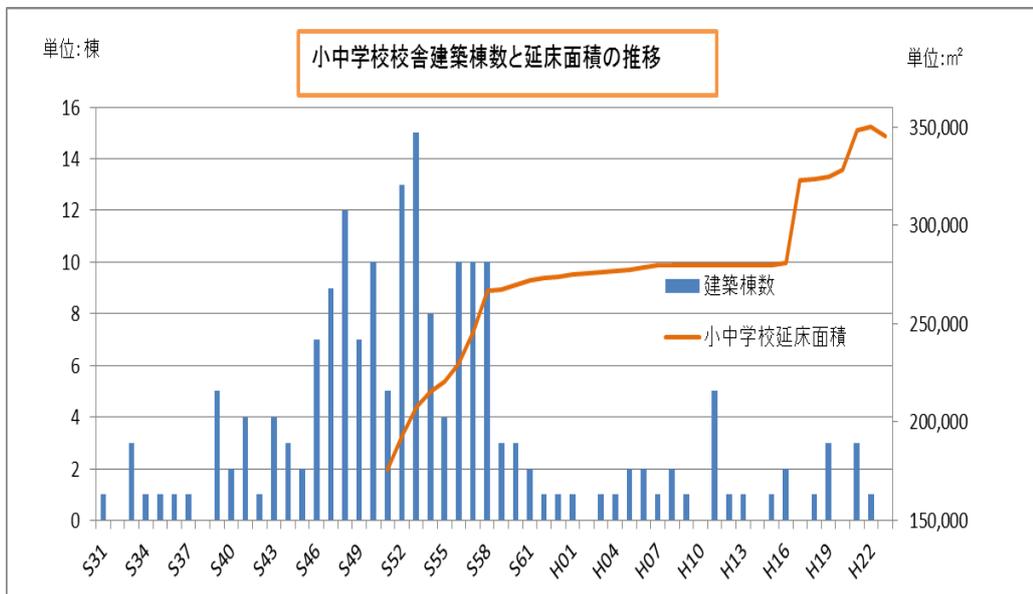
学校

1 学校の整備状況

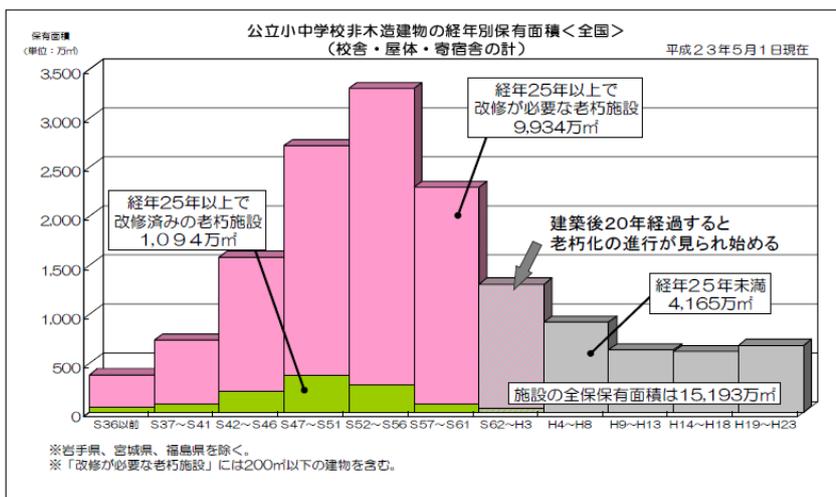
本市では昭和40年代以降の児童生徒の急増期に、老朽化した木造校舎を鉄筋コンクリート造に建替え教室数を増やすとともに、新たな学校を建設して必要な教室の確保に努めてきました。

その結果、平成24年5月現在では、小学校50校、中学校21校、養護学校1校、高等学校1校、幼稚園4園が設置され、校舎は188棟、延床面積356,820㎡、体育館は90棟、延床面積77,857㎡、合計278棟、434,677㎡となっています。（※みやま分校を除く）

経過年数別では、校舎は、築50年以上が8棟19,378㎡、築40年以上が49棟101,983㎡、築30年以上が92棟169,430㎡となっており、全体の79.3%を占めています。体育館は、築50年以上が1棟629㎡、築40年以上が29棟20,421㎡、築30年以上が35棟23,578㎡となっており、全体の72.2%を占めています。

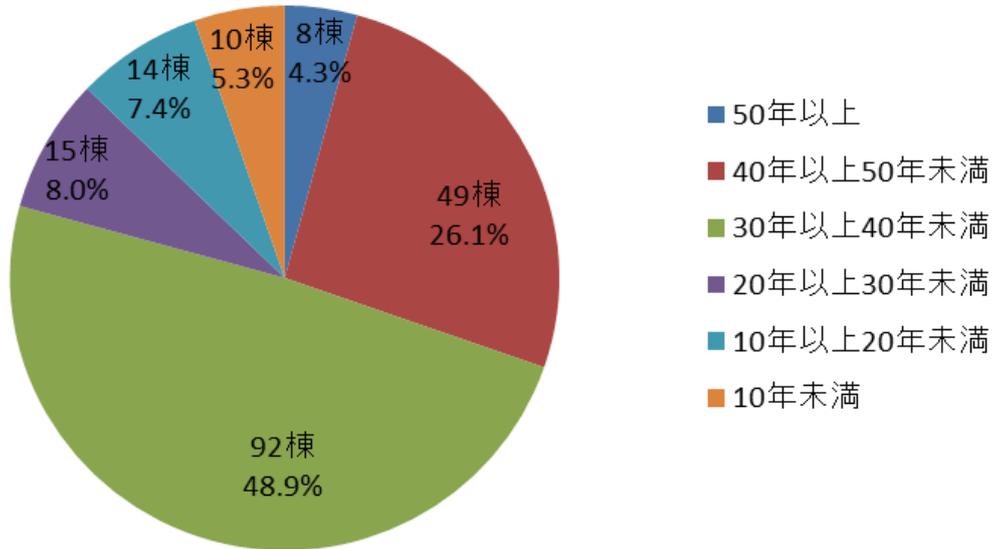


参考：全国公立中学校非木造建物の経年別保有面積

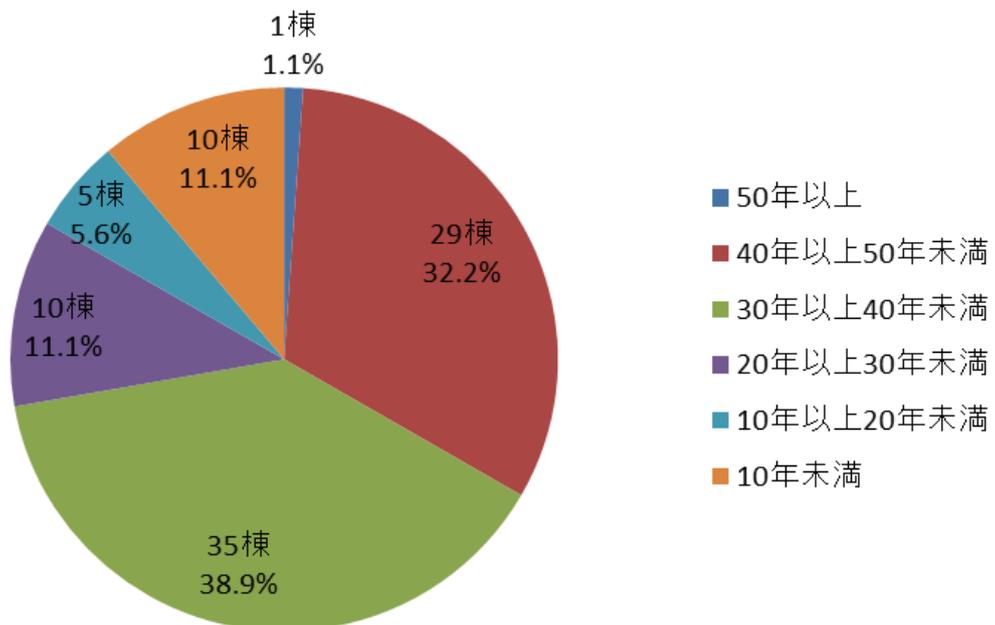


(出典：平成24年度学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議資料)

校舍經過年數別棟数



體育館經過年數別棟数



2 学校一覧

No	学校名	建物名称	棟NO	枝NO	構造	階数	建築年度	床面積 (㎡)
1	桃井小学校	校舎	1	1	RC	3	S36	3,730
		校舎	9	0	RC	3	S49	858
		体育館	4	0	S	1	S43	653
2	中川小学校	校舎	1	1	RC	3	S43	3,014
		校舎	9	0	RC	2	S49	1,253
		体育館	8	0	S	1	S46	677
3	敷島小学校	校舎	15	1	RC	3	S46	4,340
		体育館	11	0	S	1	S42	671
4	城南小学校	校舎	1	1	RC	3	S46	4,822
		体育館	4	0	S	1	S47	677
5	城東小学校	校舎	11	1	RC	3	S46	1,437
		校舎	12	0	RC	4	S47	1,593
		校舎	13	0	RC	4	S48	2,268
		体育館	10	0	SC	1	S42	671
6	若宮小学校	校舎	14	1	RC	3	S48	1,349
		校舎	15	1	RC	3	S48	1,585
		校舎	16	1	RC	3	S50	1,903
		体育館	8	0	S	1	S44	670
7	天川小学校	校舎	11	1	RC	2	S53	933
		校舎	11	2	RC	3	S55	3,062
		校舎	11	3	RC	3	S59	1,203
		体育館	8	0	S	1	S45	673
8	岩神小学校	校舎	7	1	RC	3	S53	3,356
		校舎	8	1	RC	2	S53	1,708
		体育館	4	0	S	1	S43	653
9	中央小学校	校舎	5	1	RC	3	S46	1,892
		校舎	5	3	RC	3	S47	1,828
		校舎	6	0	RC	3	S48	1,121
		体育館	4	1	S	1	S41	664
10	広瀬小学校	校舎	1	1	RC	3	S44	3,169
		校舎	1	4	RC	3	S52	882
		校舎	4	1	RC	3	S49	1,621
		体育館	10	0	S	1	S47	815
11	山王小学校	校舎	1	1	RC	3	S53	3,047
		校舎	2	1	RC	4	S53	2,404
		体育館	4	0	S	1	S53	738
12	朝倉小学校	校舎	1	1	RC	3	S50	2,770
		校舎	1	2	RC	3	S51	2,733
		体育館	2	0	S	1	S51	892
13	天神小学校	校舎	1	1	RC	4	S57	3,385
		校舎	3	0	RC	4	S58	1,785
		体育館	6	0	S	1	S58	725
14	上川淵小学校	校舎	11	1	RC	3	S51	1,537
		校舎	11	4	RC	3	S54	1,864
		体育館	10	0	S	1	S43	496

No	学校名	建物名称	棟 NO	枝 NO	構造	階数	建築年度	床面積 (㎡)
15	下川淵小学校	校舎	10	0	RC	3	S50	1,754
		校舎	11	0	RC	2	S52	1,441
		校舎	15	1	RC	3	S57	2,126
		体育館	9	0	S	1	S48	677
16	桂萱小学校	校舎	2	0	RC	3	S43	1,830
		校舎	9	1	RC	3	S53	1,818
		体育館	6	0	S	1	S47	676
17	桃木小学校	校舎	1	1	RC	3	S52	2,018
		校舎	2	1	RC	4	S53	3,014
		体育館	3	0	S	1	S53	738
18	桂萱東小学校	校舎	7	1	RC	3	S50	1,468
		校舎	9	1	RC	3	S56	3,013
		校舎	9	4	RC	2	H6	451
		体育館	5	0	S	1	S46	670
19	桃瀬小学校	校舎	1	1	RC	3	S46	2,636
		校舎	1	3	RC	3	S51	1,947
		体育館	5	0	S	1	S49	677
20	芳賀小学校	校舎	13	1	RC	3	S52	3,152
		校舎	15	1	RC	3	S55	2,772
		体育館	9	0	S	1	S50	738
21	嶺小学校	校舎	1	1	RC	2	S43	1,313
		校舎	1	3	RC	2	H5	1,165
		体育館	3	1	S	1	S43	421
22	総社小学校	校舎	20	0	RC	3	S52	1,396
		校舎	21	1	RC	3	S53	2,406
		体育館	23	0	S	1	S39	643
23	勝山小学校	校舎	1	1	RC	3	S50	4,929
		体育館	2	0	S	1	S51	678
24	元総社小学校	校舎	3	1	RC	3	S37	2,094
		校舎	8	0	RC	3	S45	1,450
		体育館	9	0	S	1	S47	677
25	元総社南小学校	校舎	2	1	RC	3	S33	1,632
		校舎	9	0	S	3	S52	1,118
		体育館	3	0	S	1	S40	687
26	元総社北小学校	校舎	1	1	RC	4	S56	3,158
		校舎	3	0	RC	2	S57	453
		校舎	4	0	RC	3	S57	903
		体育館	9	0	S	1	S57	725
27	東小学校	校舎	10	1	RC	3	S43	1,624
		校舎	15	1	RC	4	S47	2,810
		校舎	26	0	RC	2	S60	590
		校舎	36	0	RC	3	H19	870
		体育館	14	0	S	1	S46	677
28	大利根小学校	校舎	1	1	RC	3	S46	3,166
		校舎	4	1	RC	3	S48	1,724
		体育館	5	0	S	1	S49	839

No	学校名	建物名称	棟 NO	枝 NO	構造	階数	建築年度	床面積 (㎡)
29	新田小学校	校舎	1	1	RC	4	S55	1,801
		校舎	1	3	RC	4	H6	550
		校舎	3	0	RC	4	S56	1,851
		校舎	4	0	RC	1	S56	174
		体育館	5	0	S	1	S56	738
30	細井小学校	校舎	3	1	RC	3	S35	1,000
		校舎	3	2	RC	3	S44	2,231
		校舎	7	0	RC	3	S53	1,536
		体育館	4	0	S	1	S50	738
31	桃川小学校	校舎	1	1	RC	3	S41	2,035
		校舎	1	3	RC	3	S44	2,596
		体育館	11	0	S	1	S46	670
32	荒牧小学校	校舎	1	1	RC	3	S47	1,463
		校舎	2	0	RC	3	S48	1,573
		校舎	3	0	RC	4	S48	2,589
		体育館	5	0	S	1	S50	738
33	清里小学校	校舎	13	1	RC	3	S54	3,296
		体育館	11	0	S	1	S49	597
34	永明小学校	校舎	15	1	RC	4	S47	3,697
		校舎	15	6	RC	4	S57	747
		校舎	16	1	RC	3	S52	1,027
		体育館	14	1	S	1	S44	582
35	駒形小学校	校舎	2	1	RC	3	S40	2,232
		校舎	2	4	RC	4	S47	1,314
		校舎	6	1	RC	3	S58	579
		校舎	8	0	RC	3	S61	582
		体育館	5	0	S	1	S48	671
36	荒子小学校	校舎	1	1	RC	2	S34	2,103
		校舎	1	5	S	2	S54	666
		校舎	1	7	RC	2	H1	981
		体育館	10	0	S	1	S48	676
37	大室小学校	校舎	4	0	RC	2	S41	620
		校舎	11	0	RC	3	S63	1,560
		体育館	8	0	S	1	S49	597
38	二之宮小学校	校舎	8	1	RC	2	S53	856
		校舎	8	2	RC	2	S56	179
		校舎	11	0	RC	3	S56	2,482
		体育館	7	1	S	1	S45	596
39	筑井小学校	校舎	2	1	RC	2	S39	1,481
		校舎	8	1	RC	3	S54	1,398
		体育館	5	0	S	1	S46	598
40	大胡小学校	校舎	18	1	RC	3	H18	6,298
		体育館	18	2	RC	2	H18	1,286
41	滝窪小学校	校舎	11	1	RC	3	S57	2,664
		体育館	16	0	S	2	H20	999
42	滝窪小学校金丸分校	校舎	1	1	RC	2	H5	1,073
		体育館	7	0	S	1	H6	544

No	学校名	建物名称	棟 NO	枝 NO	構造	階数	建築年度	床面積 (m ²)
43	大胡東小学校	校舎	1	1	RC	2	H16	5,682
		校舎	3	0	S	2	H21	340
		体育館	1	6	RC	2	H16	1,337
44	宮城小学校	校舎	1	0	RC	3	S47	2,111
		校舎	3	0	RC	2	S40	1,747
		体育館	6	0	S	1	S44	805
45	粕川小学校	校舎	1	1	RC	3	S41	3,599
		校舎	1	8	RC	2	H7	1,160
		体育館	8	1	RC	2	H8	2,020
46	月田小学校	校舎	1	0	RC	3	S60	2,337
		体育館	2	0	RC	2	S60	994
47	原小学校	校舎	3	0	RC	3	S46	4,064
		体育館	1	0	S	2	S56	732
48	時沢小学校	校舎	1	1	RC	3	S48	2,902
		校舎	4	0	RC	2	S54	767
		校舎	10	0	RC	2	H21	872
		体育館	6	0	S	1	S55	725
49	石井小学校	校舎	1	0	RC	3	S50	1,840
		校舎	9	0	RC	4	S62	457
		体育館	5	0	S	2	S56	732
50	白川小学校	校舎	1	1	RC	3	S52	2,021
		校舎	19	0	RC	2	H13	562
		体育館	2	0	S	2	S57	740
51	第一中学校	校舎	1	1	RC	3	S31	4,950
		校舎	10	1	RC	3	S56	1,691
		体育館	20	0	RC	2	H17	1,938
52	みずき中学校	校舎	1	1	RC	4	S45	3,883
		校舎	23	0	RC	2	S59	630
		体育館	14	1	S	1	S35	629
		体育館	20	0	S	2	S55	343
53	第三中学校	校舎	2	0	RC	4	S39	2,867
		校舎	8	1	RC	1	S49	3,252
		体育館	12	0	S	2	S55	343
		体育館	15	0	RC	2	H15	1,430
54	第五中学校	校舎	1	1	RC	3	S33	2,000
		校舎	2	0	RC	3	S33	1,869
		校舎	3	0	RC	3	S42	696
		体育館	11	1	S	2	S39	793
		体育館	17	0	S	2	S56	343
55	第六中学校	校舎	28	0	RC	4	H15	5,993
		体育館	23	0	S	1	S60	340
		体育館	34	0	RC	2	H16	1,555
56	第七中学校	校舎	24	0	RC	3	H19	6,832
		体育館	26	0	RC	2	H19	2,182

No	学校名	建物名称	棟 NO	枝 NO	構造	階数	建築年度	床面積 (m ²)
57	春日中学校	校舎	1	0	RC	3	S52	1,651
		校舎	3	0	RC	4	S53	3,389
		校舎	5	0	S	1	S53	256
		体育館	6	0	S	1	S53	949
		体育館	11	0	S	2	S56	343
58	広瀬中学校	校舎	1	1	RC	3	S55	2,448
		校舎	4	0	RC	4	S56	2,196
		校舎	5	0	RC	1	S56	256
		体育館	6	0	S	1	S56	949
		体育館	10	0	S	2	S57	343
59	桂萱中学校	校舎	11	1	RC	3	S49	1,715
		校舎	11	4	RC	3	S53	1,441
		校舎	12	1	RC	4	S52	2,215
		校舎	32	0	S	1	H19	164
		体育館	29	0	RC	2	H19	2,013
60	芳賀中学校	校舎	8	1	RC	4	S54	1,523
		校舎	8	2	RC	4	S57	769
		校舎	14	0	RC	4	S58	2,077
		校舎	15	0	RC	1	S58	147
		体育館	13	0	S	2	S57	343
		体育館	20	0	RC	2	H22	1,570
61	元総社中学校	校舎	1	0	RC	4	S52	6,078
		校舎	14	0	S	1	H12	194
		体育館	6	0	S	1	S52	952
		体育館	8	0	S	1	S52	247
62	東中学校	校舎	1	1	RC	4	S41	3,201
		校舎	1	5	RC	4	S51	1,519
		体育館	7	1	S	1	S43	645
		体育館	15	0	S	2	S57	356
63	箱田中学校	校舎	1	1	RC	4	S57	2,667
		校舎	2	0	RC	4	S58	1,809
		校舎	3	0	RC	3	S58	736
		校舎	4	0	RC	2	S58	256
		体育館	5	1	S	2	S58	1,094
		体育館	7	0	S	2	S58	343
64	南橘中学校	校舎	12	0	RC	3	S47	1,604
		校舎	14	1	RC	4	S48	2,517
		校舎	14	2	RC	3	S49	885
		校舎	16	0	RC	3	S52	1,459
		体育館	20	0	S	1	S54	338
		体育館	25	0	RC	2	H12	1,687

No	学校名	建物名称	棟 NO	枝 NO	構造	階数	建築年度	床面積 (m ²)
65	鎌倉中学校	校舎	1	0	RC	4	S57	2,566
		校舎	4	0	RC	4	S58	1,982
		校舎	5	0	RC	3	S58	785
		校舎	6	0	RC	1	S58	252
		体育館	7	1	S	2	S58	1,094
		体育館	12	0	S	2	S59	539
66	木瀬中学校	校舎	12	1	RC	3	S53	2,471
		校舎	12	2	RC	4	S54	1,250
		校舎	12	3	RC	3	S56	1,125
		校舎	12	4	RC	4	S59	1,816
		校舎	21	0	RC	2	S60	288
		体育館	10	0	S	2	S42	892
		体育館	17	0	S	2	S58	343
67	荒砥中学校	校舎	15	1	RC	3	S47	1,595
		校舎	15	4	RC	3	S61	706
		校舎	16	1	RC	4	S49	2,491
		校舎	16	3	RC	4	H3	768
		体育館	13	0	S	2	S42	892
		体育館	20	0	S	2	S55	343
68	大胡中学校	校舎	12	1	RC	4	S50	2,477
		校舎	13	1	RC	3	S52	2,136
		校舎	22	0	S	2	H4	480
		体育館	10	0	RC	2	S41	885
		体育館	16	0	S	2	S53	480
69	宮城中学校	校舎	1	0	RC	3	S51	2,108
		校舎	2	0	RC	3	S57	2,498
		体育館	3	0	S	2	S41	1,292
70	粕川中学校	校舎	1	1	RC	3	S50	1,988
		校舎	2	0	RC	3	S50	2,208
		校舎	3	0	RC	2	S50	540
		体育館	9	0	S	1	S54	2,520
71	富士見中学校	校舎	7	1	RC	3	S53	3,527
		校舎	12	0	RC	3	S39	2,208
		校舎	31	0	S	2	H21	865
		体育館	21	1	RC	2	S59	2,722
		体育館	22	1	S	2	S60	606
72	養護学校	校舎	16	0	RC	1	H11	1,587
		校舎	17	0	RC	2	H11	2,325
		校舎	21	0	RC	3	H11	1,123
		校舎	22	0	RC	1	H11	360
		校舎	24	0	RC	1	H11	586
		体育館	23	0	RC	1	H11	877

No	学校名	建物名称	棟 NO	枝 NO	構造	階数	建築年度	床面積 (㎡)
73	前橋高等学校	校舎	1	0	RC	3	H8	6,810
		校舎	2	0	RC	3	H8	3,098
		校舎	9	0	RC	3	H9	1,533
		体育館	6	1	RC	3	H8	4,731
		体育館	12	0	S	1	H21	260
74	まえばし幼稚園	校舎	1	0	RC	2	S39	1,278
		校舎	2	0	RC	1	S39	279
75	大胡幼稚園	校舎	1	0	RC	1	S48	332
		校舎	2	0	RC	1	S48	149
		校舎	3	0	RC	1	S48	149
		校舎	5	0	RC	2	S54	720
76	大胡東幼稚園	校舎	1	0	S	1	H16	1,587
77	宮城幼稚園	校舎	10	0	S	1	H22	1,551
合計		校舎					188 棟	356,820
		体育館					90 棟	77,857

平成 24 年 5 月 1 日現在

学校施設台帳に基づく 200 ㎡以上の建物。増築した建物は最も古い建物に面積を合算した。

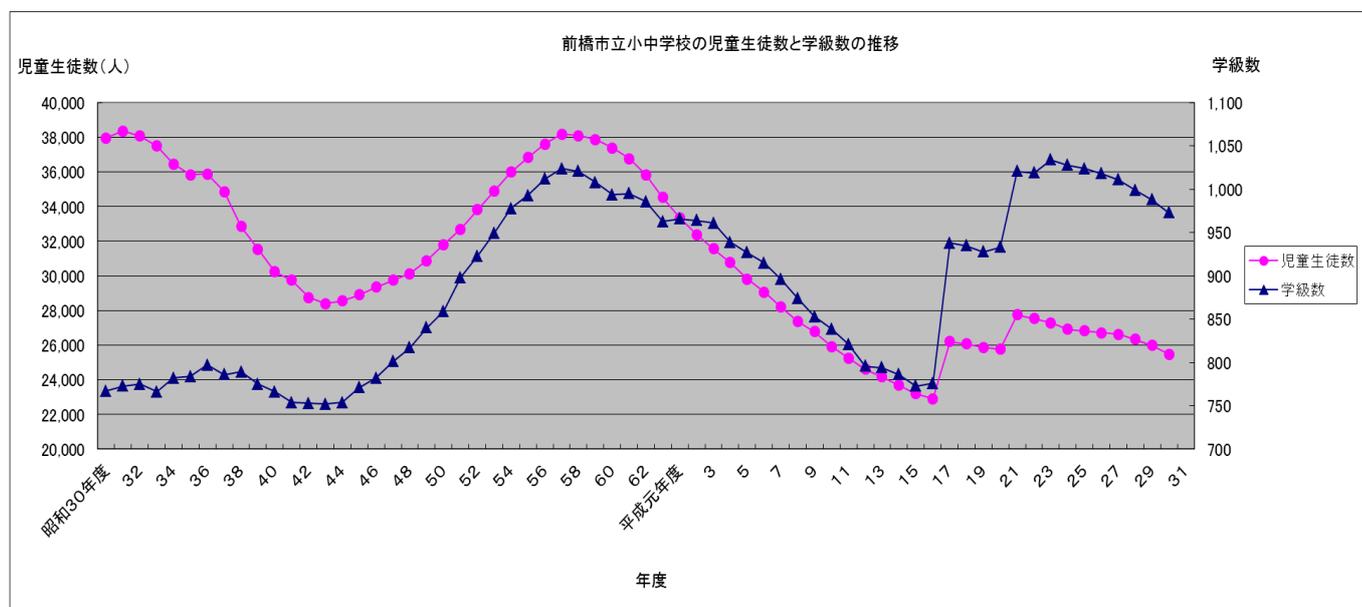
構造の RC は鉄筋コンクリート造、S は鉄骨造。

3 児童生徒数の状況

本市小中学校の児童生徒数は、昭和 31 年度の 38,371 人をピークに減少していましたが、昭和 42 年度からは増加に転じ、昭和 58 年度には昭和 31 年度とほぼ同数の 38,109 人となりました。その後は、市町村合併により一時的な増加がありましたが、減少傾向となっており、平成 24 年度は 26,929 人と昭和 58 年度と比較すると 29.3%減少しています。

学級数は、平成 24 年度は 1,028 学級で、昭和 58 年度の 1,021 学級とほぼ同数となっており、児童生徒の減少とは異なる傾向となっています。その要因として、少人数学級の導入などが考えられます。

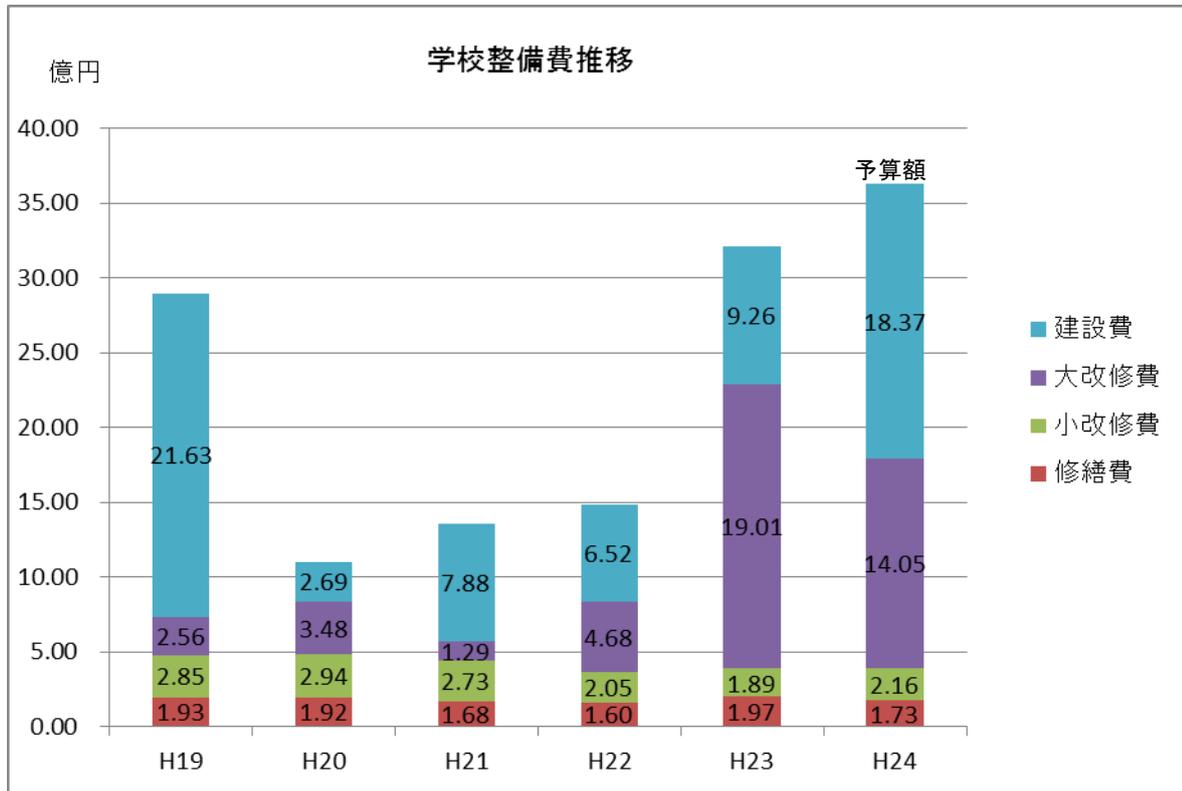
なお、平成 30 年度の児童生徒数は、約 25,500 人、学級数は、約 970 学級と減少が推計されています。



4 学校整備の支出状況

歳出推移は、建物の修繕費、小改修費は毎年度ほぼ一定額で推移していますが、平成 23 年度の整備費は約 32.1 億円と大きく伸びています。

平成 23 年度の内訳は、大改修費が小中学校の普通教室エアコン設置費約 10.4 億円、耐震補強及び老朽建物の大規模改造費約 6.9 億円、建設費は、みずき中校舎等新築工事 7.3 億円（2 年計画の 1 年目）となっています。



5 学校の整備について

(1)建物の使用年数

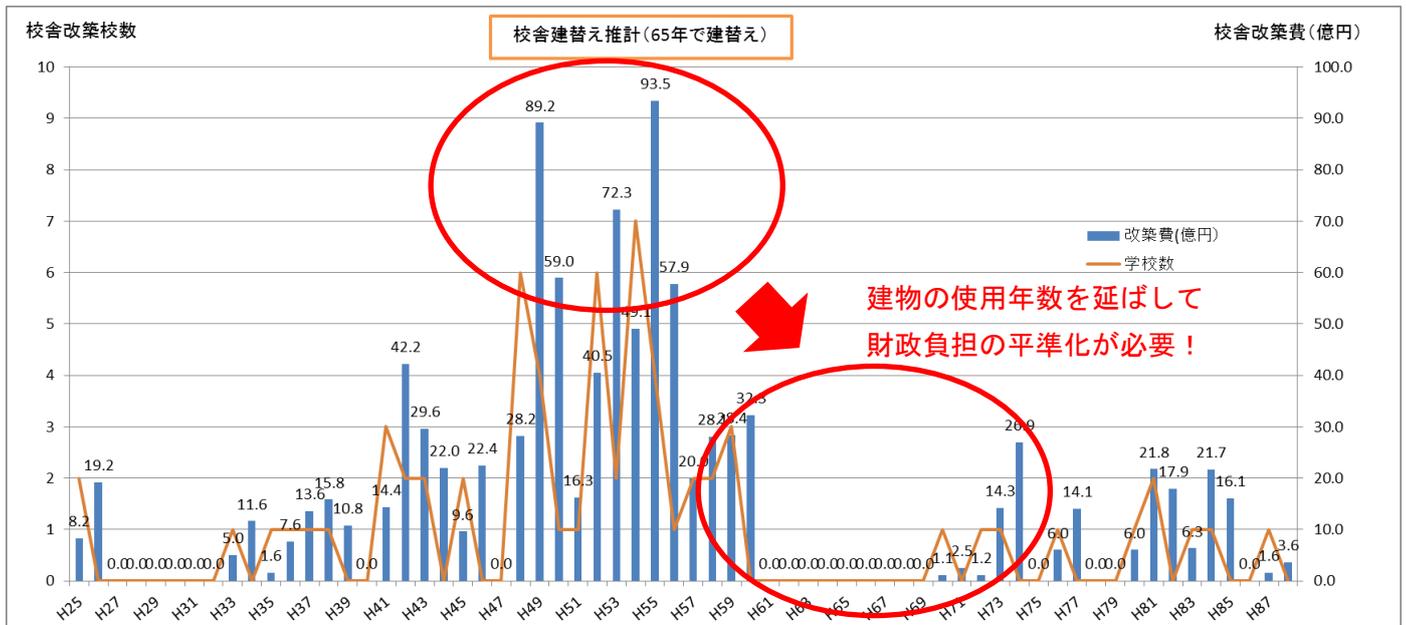
現在、鉄筋コンクリート造の校舎については、おおむね築 50 年で建替えています。

本計画では、鉄筋コンクリート造については築 65 年を目標使用年数としていますので、現在の鉄筋コンクリート造の校舎を 65 年で建替えと想定し、建替えにかかる事業費を推計しました。

事業費のピークは平成 49 年度に 89.2 億円、平成 55 年度に 93.5 億円となり、校舎の建替えにかかる事業費だけで平成 23 年度の学校整備経費 31.3 億円の約 3 倍、その他の年度についても事業費が 40 億円を超える年度が推計されました。

限られた予算のなかでは、このような建替えの集中に対応することは困難で、計画的に校舎の建替えを行い、財政負担の平準化していくことが求められます。

本計画では、鉄筋コンクリート造については築 65 年、鉄骨造については築 45 年を目標使用年数としていますが、毎年度一校ずつ建替えをした場合でも、学校によっては、現在の校舎を約 75 年、体育館は約 60 年と目標使用年数よりも長期の使用が見込まれます。



注) 校舎は 2 年で建替えを行うため、建替え着手の次年度に事業費が多くなります。

(2)老朽度調査と長期利用について

前述のとおり、学校は目標使用年数よりも長期の使用が見込まれます。

6 ページでも説明をしていますが、建物の使用期間（老朽度）を図る目安のひとつに、コンクリート中性化と鉄筋の発錆の進行があげられます。そこで、校舎を抽出してコンクリート中性化の進行度と鉄筋の発錆状況を調査したところ下記のとおりでした。

現状では、コンクリート中性化については経年に即した進行具合で、問題となるような鉄筋の発錆は見られませんでした。同一建物であっても調査箇所によって大きな差が見受けられ、長期利用といった面では、今後の予防保全が重要との結果になりました。

	建築年月	部位	劣化状況	コンクリート中 性化深さ (mm)	鉄筋 発錆	長期利用の期待
A学校	昭和 53 年 12 月	柱 1	問題なし	7	有(注 1)	見込める
		柱 2	問題なし	10	無	見込めない
B学校	昭和 52 年 3 月	柱 1	問題なし	0	無	見込める
		柱 2	問題なし	0	無	見込める
C学校	昭和 50 年 7 月	柱 1	問題なし	9	無	見込めない
		柱 2	問題なし	12	無	見込める
D学校	昭和 58 年 3 月	柱 1	問題なし	23	無	見込める
		柱 2	問題なし	19	無	見込める

※「既存鉄筋コンクリート造学校建物の耐力度測定方法」に基づき調査を行った。

(注 1)鉄筋の発錆は微量で、老朽化によるものではなく、コンクリート打設前のものと思われる。

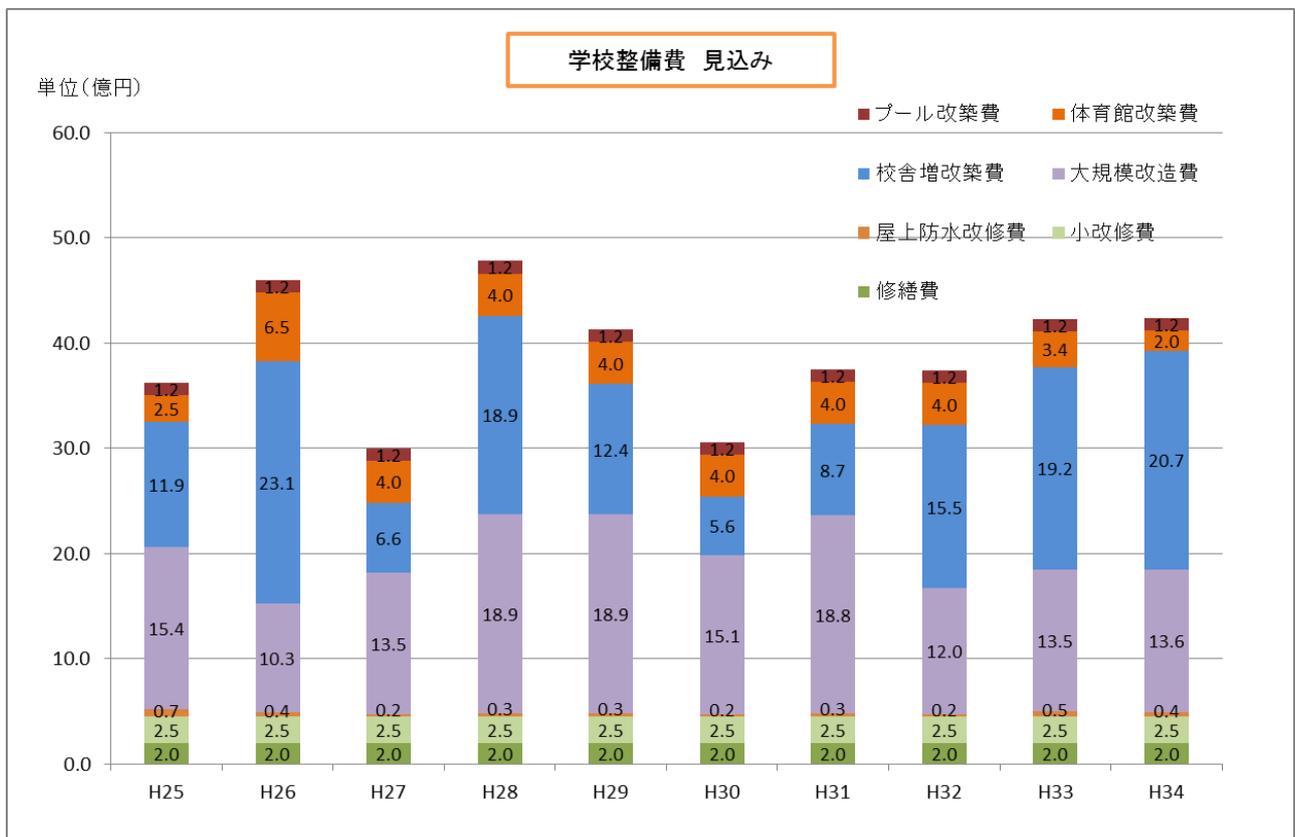
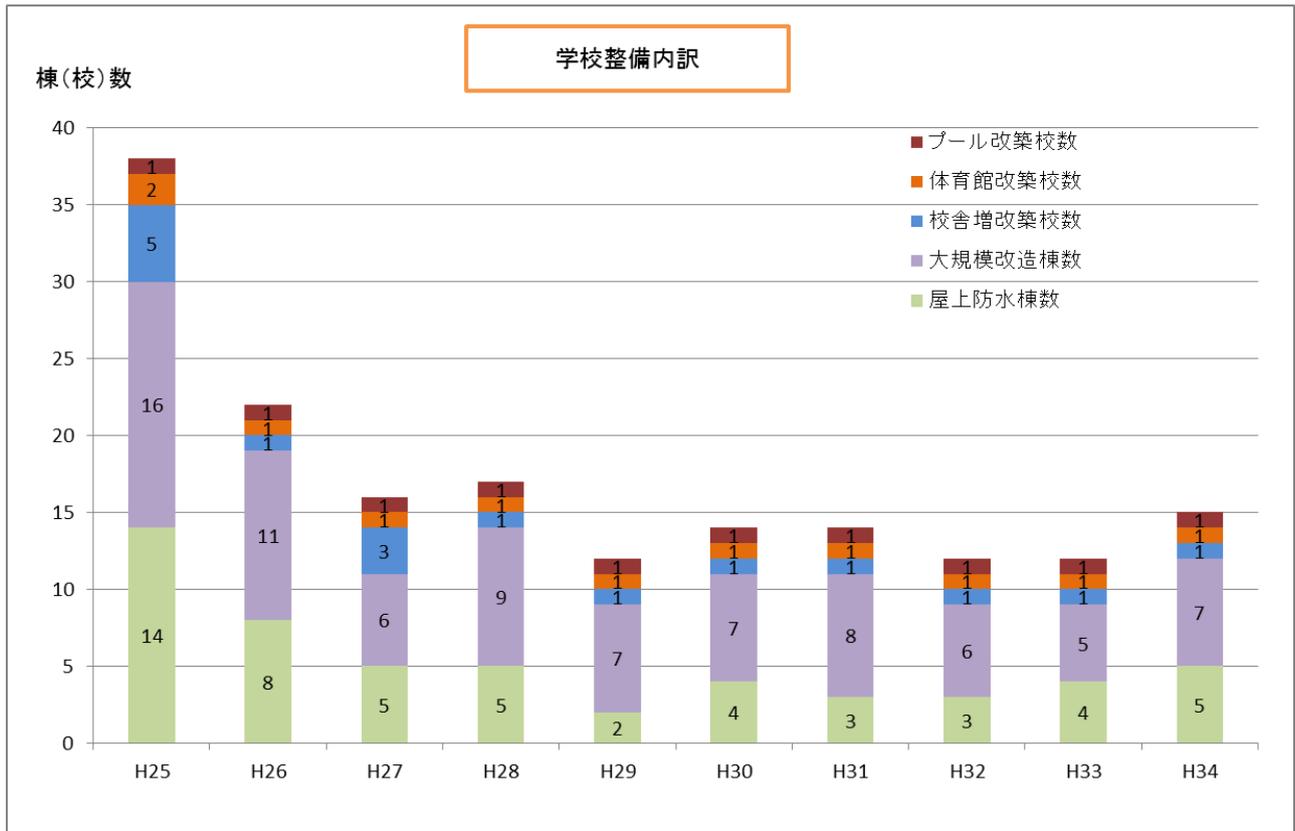
(3) 学校の整備計画

学校については、平成 26 年度までは耐震改修事業を最優先とし、校舎及び体育館の耐震補強・大規模改造工事を進めていきます。平成 27 年度以降は「長寿命型改善事業」として、校舎の屋上防水と大規模改造を重点に取り組み、将来に建替え時期が集中しないよう、校舎・体育館・プール等の建替えについても計画的に取り組んでいきます。

学校施設整備計画

単位：棟、億円

年度	修繕費	小改修費	長寿命型改善事業				増改築						合計	
			屋上防水		大規模改造		校舎		体育館		プール			
			棟数	改修費	棟数	改造費	棟数	増改築費	棟数	改築費	棟数	改築費	棟数	事業費
H25	2.0	2.5	14	0.7	16	15.4	5	11.9	2	2.5	1	1.2	38	36.2
H26	2.0	2.5	8	0.4	11	10.3	1	23.1	1	6.5	1	1.2	22	46.0
H27	2.0	2.5	5	0.2	6	13.5	3	6.6	1	4.0	1	1.2	16	30.0
H28	2.0	2.5	5	0.3	9	18.9	1	18.9	1	4.0	1	1.2	17	47.8
H29	2.0	2.5	2	0.3	7	18.9	1	12.4	1	4.0	1	1.2	12	41.3
H30	2.0	2.5	4	0.2	7	15.1	1	5.6	1	4.0	1	1.2	14	30.6
H31	2.0	2.5	3	0.3	8	18.8	1	8.7	1	4.0	1	1.2	14	37.5
H32	2.0	2.5	3	0.2	6	12.0	1	15.5	1	4.0	1	1.2	12	37.4
H33	2.0	2.5	4	0.5	5	13.5	1	19.2	1	3.4	1	1.2	12	42.3
H34	2.0	2.5	5	0.4	7	13.6	1	20.7	1	2.0	1	1.2	15	42.4
合計	20.0	25.0	53	3.5	82	150.0	16	142.6	11	38.4	10	12.0	172	391.5



6 学校整備の課題

(1) 新たな手法の研究

財政負担の平準化という面では、新たな手法を研究していくことも必要です。

いくつかの自治体において、PFIで学校整備を行っていますが、特に四日市市では、複数校同時建替えをPFIの導入により解決した事例があります。

PFIとはPrivate Finance Initiative（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）の略で、公共施設等の設計・建設・維持管理等に民間部門（プライベート）の持つ経営ノウハウや資金（ファイナンス）を活用することで、低廉かつ良質な公共サービスを提供することを目的とした新しい公共事業の手法です。

従来型の学校整備の場合、建設にかかる費用は建設期間にすべて支払うため、事業期間の最初の2年～3年に大きな費用負担が発生します。一方、PFI事業の場合は、建設にかかる費用負担のうち、補助金と市債を除いた一般財源で賄う金額と、施設の維持管理費・運営費などが一体となったサービス料を事業期間中に毎年、民間事業者を支払っていきます。そのため、財政の平準化効果を得ることができます。また、設計、建設業務を同一民間事業者に委ねることによりコストや事業期間の縮減も期待されます。

(2) 適正規模・適正配置

施設数や規模（面積）に比例して施設整備にかかる費用は大きくなります。

平成20年度に前橋市立小中学校の適正規模・適正配置基本方針が策定され、第二・第四中学校が統合し、平成23年4月にみずき中学校が開校しました。

本市では今後も児童生徒数の減少が見込まれています。

学校の適正規模・適正配置は、当該校の児童生徒、保護者、地域住民の十分な理解と、互いの共通認識の下に協議を行い、様々な課題を解決しながら、円滑に進められなければならない問題ではありますが、施設の維持管理、整備にかかる経費や人件費といった運営コストの削減といった視点からも考えていく必要のある課題のひとつです。

社会体育（スポーツ）施設

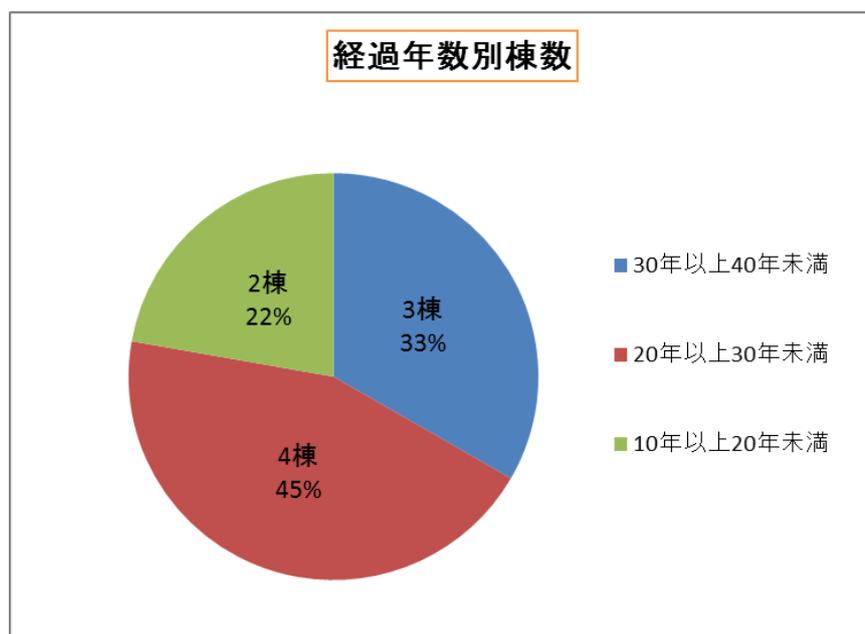
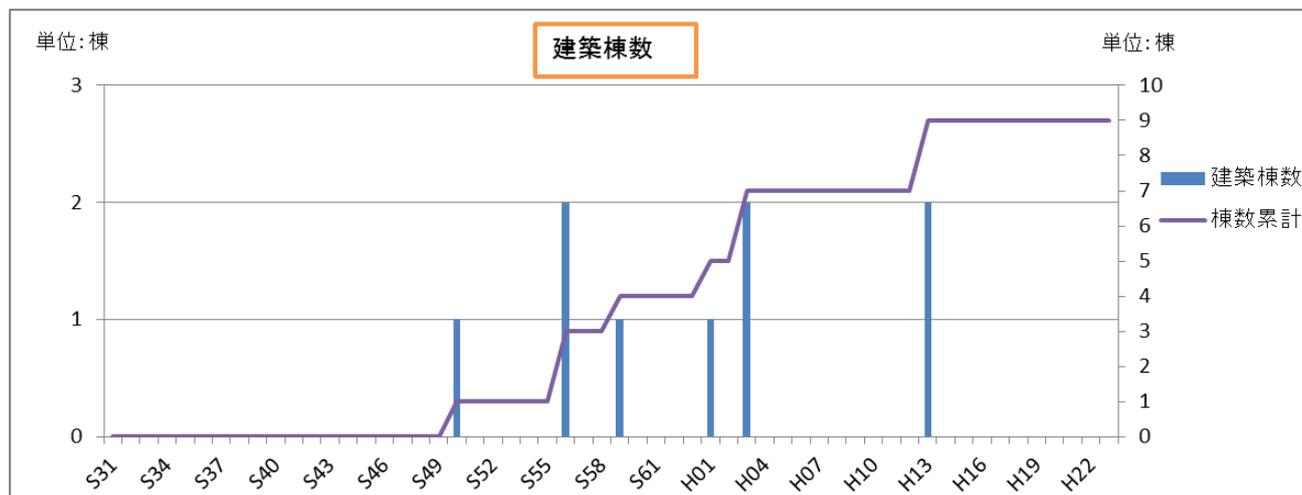
1 社会体育（スポーツ）施設の整備状況

本市の社会体育（スポーツ）施設の整備は、昭和 36 年度の市民プール、昭和 38 年度の三俣テニスコートを始め、昭和 58 年度に「あかぎ国体」が本市で開催されることに伴い、昭和 56 年頃から施設整備が充実されてきました。主には昭和 56 年度に市民体育館、昭和 60 年度に北部運動場、平成元年度には市民プール移転、平成 3 年度に大渡温水プール・トレーニングセンター及び六供温水プールがそれぞれ設置されました。

その後、平成 16 年度に大胡町、宮城村、粕川村との合併、平成 21 年度に富士見村との合併を経て、それぞれの町村の施設を引き継ぎ現在に至っています。

平成 24 年度現在では、体育館 4 棟、プール施設 4 棟、屋外運動場 12 箇所が設置されており、そのうち、長寿命化を検討する建物を有する施設は 9 棟、延床面積合計は 27,329 m²となっています。

建物については、築 30 年以上が 3 棟 11,304 m²、築 20 年以上の施設が 6 棟 9,860 m²と建物全体の 77.5%を占めています。



2 社会体育（スポーツ）施設一覧

No.	長寿命 化対象	施設名	名称	構造	階数	建築年度	※床面積（㎡）
1	○	市民体育館	体育館	RC	1	S56	9,852
2	○	市民体育館	弓道場	RC	1	S56	436
3	○	大渡体育館	体育館	S	1	S50	1,016
4	○	大胡体育館	体育館	S	1	S59	1,428
5	○	宮城体育館	体育館	RC	1	H13	5,383
6	○	市民プール	プール	S	1	H1	1,633
7	○	大渡温水プール	プール	RC	1	H3	3,513
8	○	六供温水プール	プール	RC	1	H3	3,286
9	○	宮城プール	プール	RC	1	H13	782
10		三俣テニスコート	テニスコート	S	1	S38	101
11		宮城総合運動場	運動場	RC	1	H12	291
12		粕川総合グラウンド	運動場	RC	1	H3	99
13		富士見総合グラウンド	運動場	W	1	S53	75
14		王山運動場	運動場	S	1	S54	59
15		北部運動場	運動場	S	1	S61	33
16		清里方面運動場	運動場	—	1	S55	59
17		粕川西部運動場	運動場	RC	1	H4	51
18		千本桜野球場	野球場	RC	1	S51	125
19		中之沢野球場	野球場	RC	1	S63	37
20		下増田運動場	運動場	—	1	H23	46

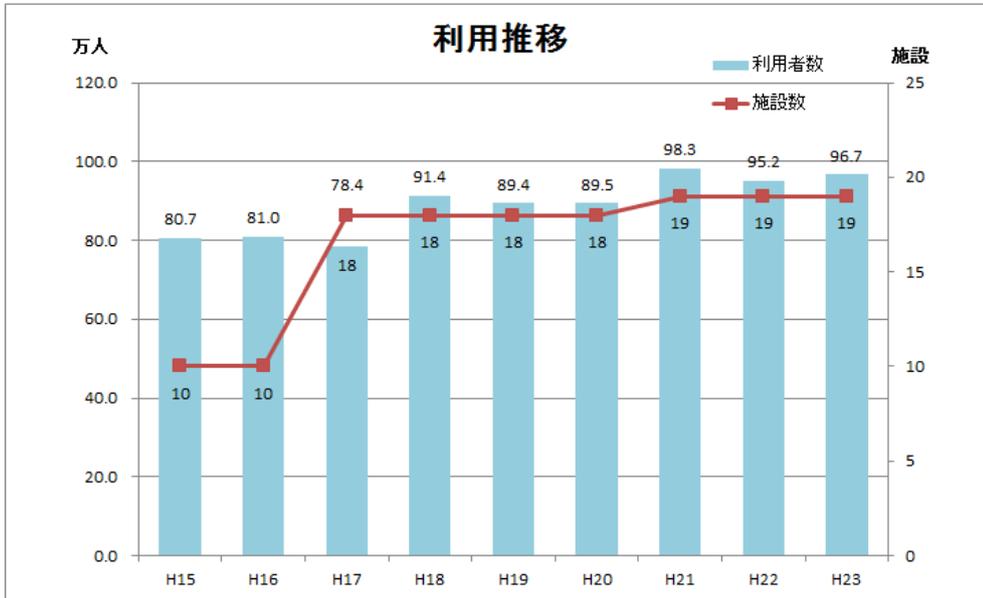
平成 24 年 4 月現在

屋外施設については、クラブハウス、便所、器具庫等について記載。

構造の RC は鉄筋コンクリート造、S は鉄骨造、W は木造。

3 利用者数の状況

本市の社会体育（スポーツ）施設の利用状況は、概ね 80 万人程度で推移していましたが、平成 16 年度の 3 町村の合併、平成 21 年度の 1 村の合併により人口、施設数が伸びたことから、それに伴い利用者数も増加しました。施設利用者数は施設改修による閉場期間や屋外施設では天候により利用が左右されるために、その年により変動があるものの概ね 95 万人の利用者がいます。

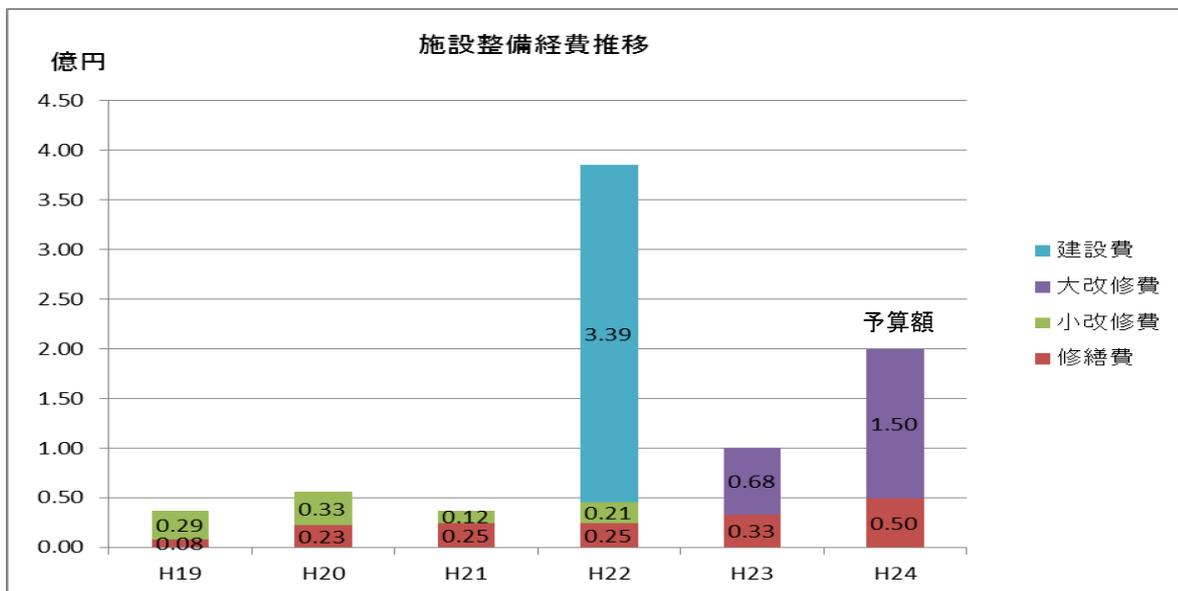


4 支出状況

平成 23 年度の保健体育費は約 21.5 億円で、そのうち施設整備にかかる工事費は約 1.01 億円となっています。

歳出推移は、修繕費、小改修費は毎年度ほぼ同額ですが、平成 23 年度は粕川総合グランドテニス場、また、平成 24 年度は王山運動場及び宮城総合運動場の大規模改修を実施したため経費が伸びています。大規模改修の財源についてはともにスポーツ振興くじの助成を受け実施されました。

平成 22 年度については下増田運動場が建設されたことにより、建設費が 3.39 億円となっています。



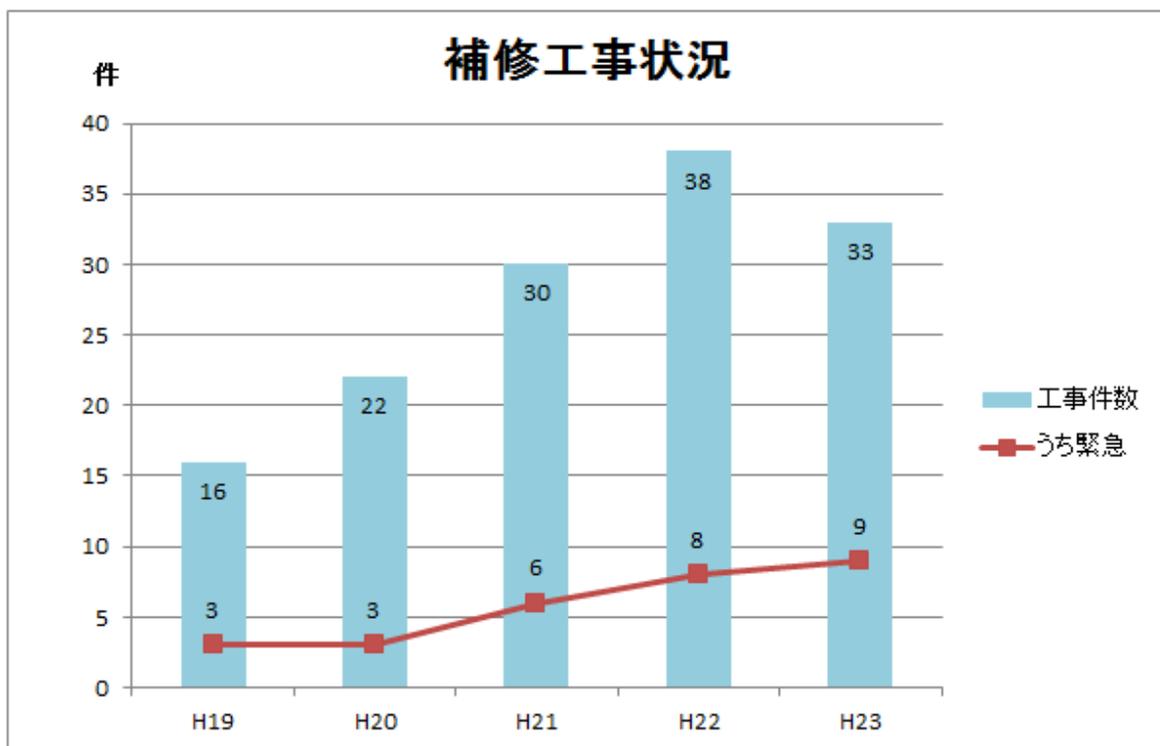
5 課題と取り組み

社会体育（スポーツ）施設については、安全に利用できることを最優先としながら利便性の向上が図られるような改修・補修工事及び維持管理に努めており、平成 23 年度に実施した「市民アンケート」の結果でも安全で快適に利用できる施設整備が望まれています。

改修・補修工事については、設備や機械などは耐用年数や稼動時間により定期的に交換補修を行っていますが、直接競技に利用されるスペースなどは、その利用により破損や損耗が生じるためにその都度の工事となります。その程度については利用頻度や利用状況により大きく左右される傾向にありますが、競技スペースなどの不具合は安全性に直結影響を及ぼすことから緊急に補修を要することになります。

これにより、年次計画されていた工事や、利便機能向上を目的とする工事の変更が発生している状況にあります。これは、建築後 20 年を経過した老朽化施設が大半を占めることと、利用頻度に応じた点検や補修が計画的に進んでいないことが要因であると考えられます。

今後の改修にあたっては、限られた財源のなかで行うことから、スポーツ振興くじ助成など財源の確保も必要ですが、併せて各施設の位置づけや役割を明確にし、県大会以上の規模の大会の開催を想定した「拠点施設」、市大会レベルの大会の開催を想定した「全市対象施設」、地域住民を対象としたスポーツ活動の場とした「地域利用施設」など、それぞれ目的や役割に応じたより効果的な改修や整備が求められます。また、太陽光発電など環境負荷低減に対応した設備の導入も検討されるものです。

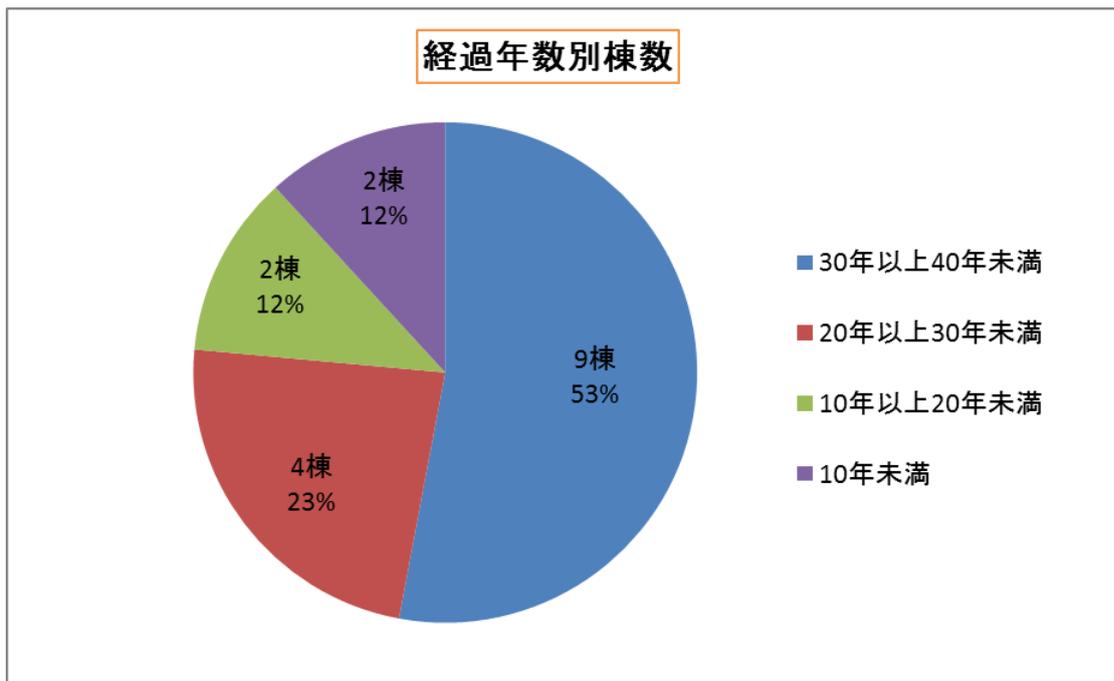
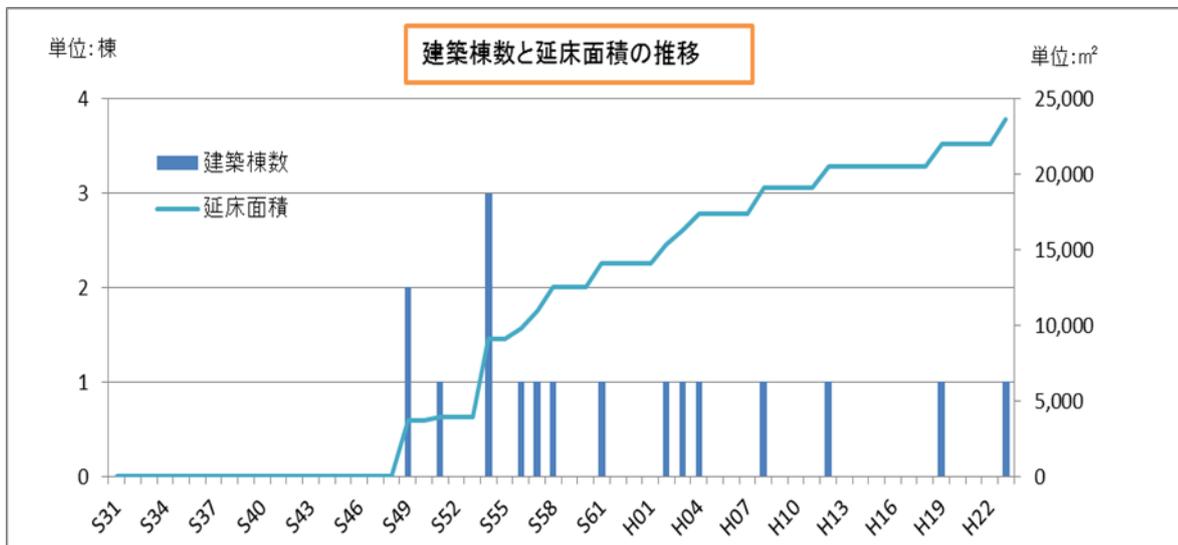


公民館

1 公民館の整備状況

本市では昭和30年4月1日に公民館条例を施行し、市民のために実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行ってきました。昭和30～40年代は、木造の施設が多く見られましたが、昭和50年代頃から、地域人口や公民館利用者の増加に伴い、鉄筋コンクリート造などへの改築を行い、利用者のニーズに応えられるよう、施設を大型化し、図書室の設置などが行われるようになりました。

平成24年12月現在、本市では中央公民館1館、地区公民館15館、分館1館、集会所4館を運営しています。このうち、長寿命化を検討する建物を有する施設は地区公民館14館、分館1館、集会所1館の建物17棟で延床面積合計は23,677㎡となっています。経過年数別棟数では、築30年以上の建物が53%で最も多く、築20年以上の建物を含めると全体の76%を占めています。



2 公民館一覧

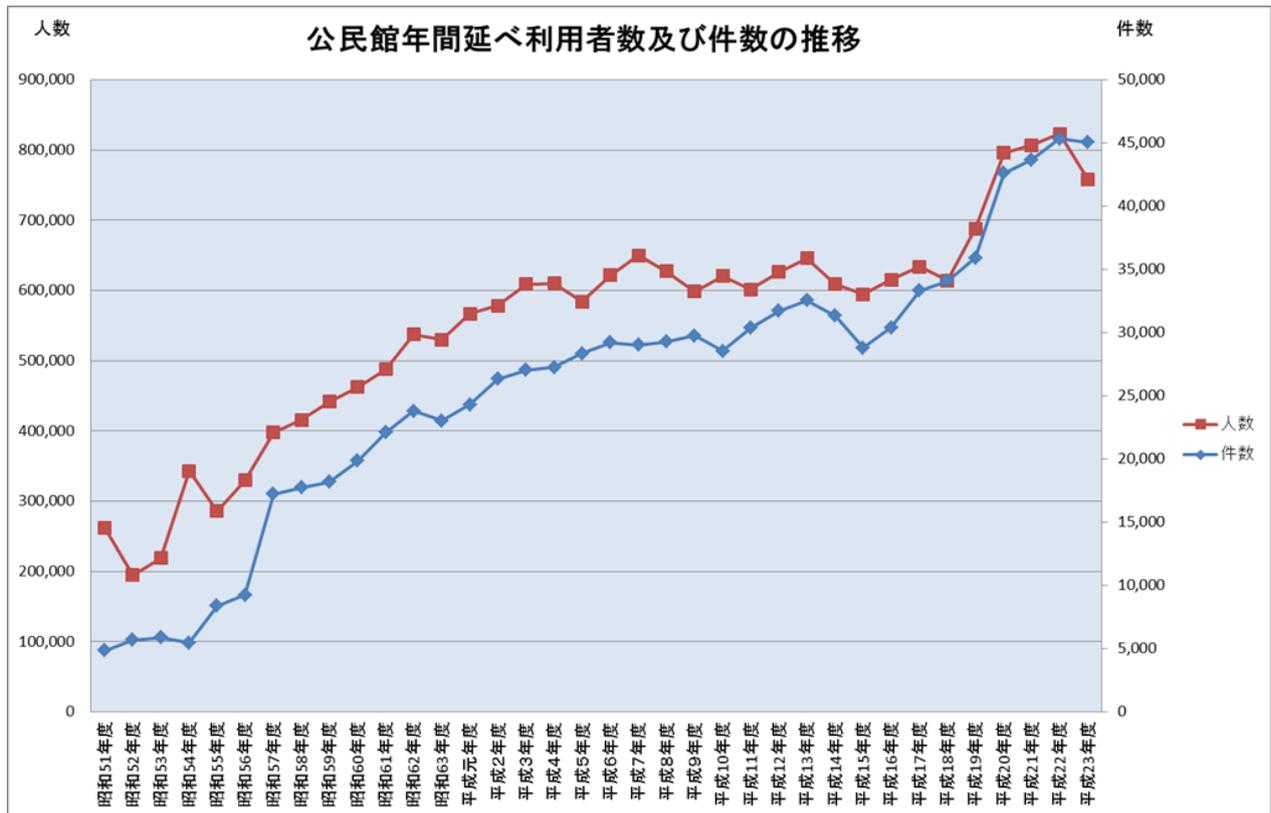
No	長寿命 化対象	公民館名	建物名称	構造	階数	建築年度	床面積 (㎡)
1		中央公民館	公民館	SRC	7	H19	7,271
2	○	上川淵公民館	公民館	RC	2	S58	1,529
3	○	上川淵公民館上北分館	公民館	S	1	S51	202
4	○	下川淵公民館	公民館	RC	1	H12	1,406
5	○	芳賀公民館	公民館	RC	1	H2	1,320
6	○	桂萱公民館	公民館	RC	2	S61	1,559
7	○	東公民館	公民館	RC	2	S54	1,154
8	○	元総社公民館	公民館	S	1	H19	1,469
9	○	総社公民館	公民館	RC	1	H23	1,701
10	○	南橋公民館	公民館	RC	2	S49	1,611
11	○	清里公民館	公民館	RC	1	H4	1,093
12	○	永明公民館	公民館	RC	2	S57	1,194
13	○	城南公民館	公民館	RC	2	H8	1,729
14	○	宮城公民館	公民館	RC	2	S54	1,454
15	○	粕川公民館	公民館	SRC	3	S49	2,093
16	○	富士見公民館	公民館	RC	2	S54	2,554
17		大胡公民館	公民館	RC	3	S55	740
18		第二コミュニティセンター	コミュニティセンター	SRC	4	H5	1,161
19		第三コミュニティセンター	コミュニティセンター	RC	6	H9	1,156
20		第四コミュニティセンター	コミュニティセンター	SRC	6	H12	756
21	○	第五コミュニティセンター	コミュニティセンター	RC	2	H3	894
22		総社公民館桜ヶ丘集会所	公民館	W	1	S47	133
23		宮城公民館鼻毛石集会所	公民館	W	1	S48	106
24	○	粕川公民館込皆戸集会所	公民館	SRC	2	S56	715
25		粕川公民館膳集会所	公民館	W	1	S60	196

増築した建物は最も古い建物に面積を合算した。

構造の R は鉄筋コンクリート造、S は鉄骨造、SRC は鉄骨鉄筋コンクリート造、W は木造。

3 公民館利用者数の状況

本市公民館利用者は、昭和 51 年度の統計開始以来、増加傾向にあり、平成 23 年度の公民館利用者数は 757,952 人と昭和 51 年度と比較するとおよそ 2.89 倍となるなど利用者が大きく増加しています。平成 19 年度から平成 20 年度にかけて利用者数が大きく増加していますが、この主な理由は中央公民館の移転による利用者数の増加によるものと考えられます。

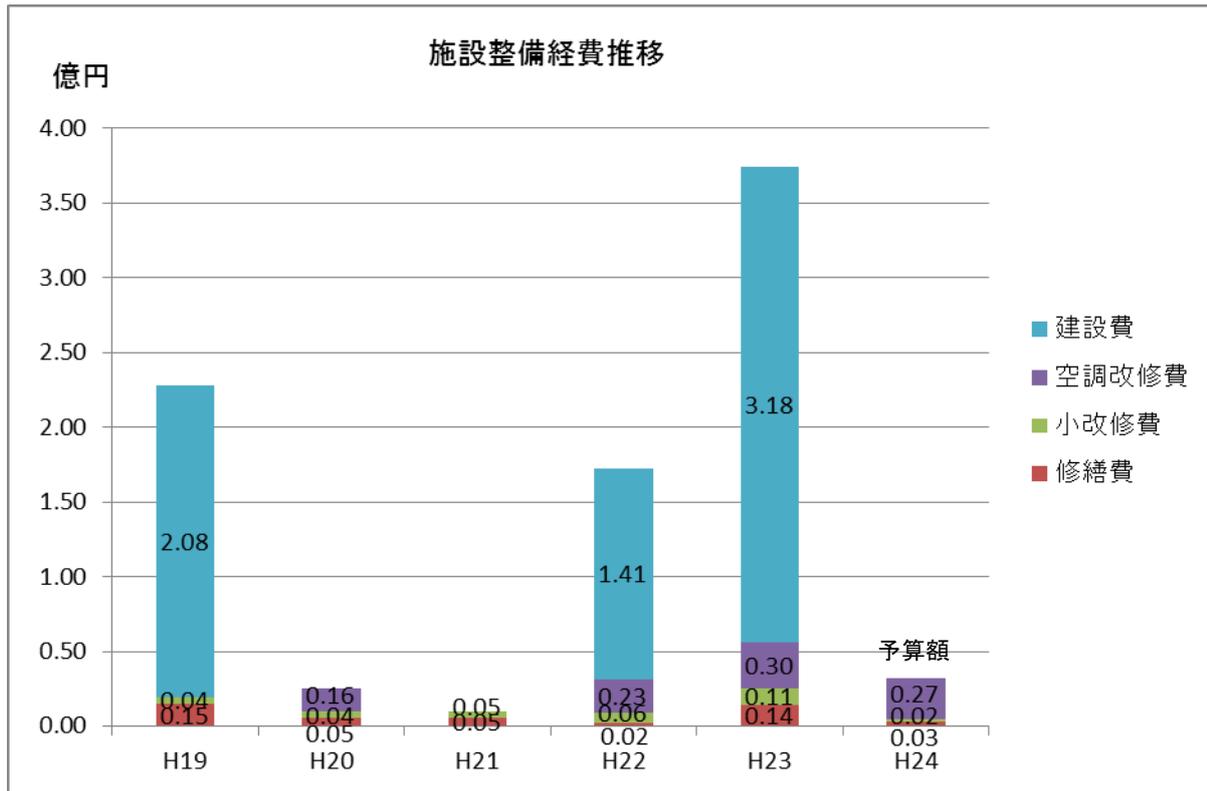


4 公民館整備の支出状況

平成23年度の公民館費は約8.1億円のうち、公民館整備にかかる工事費は約3.7億円となっています。

歳出推移は、公民館の建設にかかる費用が最も多く、次いで空調改修費となっており、修繕費と小改修費についてはこれらの費用に比べると少額となっています。

平成23年度の内訳は、総社公民館建設費約3.18億円、上川淵公民館空調改修費約0.3億円、各公民館の小改修費及び修繕費約0.25億円となっています。これに対して平成20・21・24年度については、公民館建設工事がなかったため、整備経費は抑制されています。



5 公民館整備における課題

従来公民館整備は、老朽化・狭隘化した公民館について、安全性や利便性の向上を図ることを目的として、建替えを行ってきました。その結果、ほとんどの公民館が、図書館分館や必要な室数、面積など公民館として必要な機能を備えた設備となっています。

こうした建替えには多額の経費が必要となり、大きな財政負担となります。従来、公民館整備時に国の補助金として活用してきた社会教育施設整備費補助事業については、平成10年度より地方交付税措置に変更されたため、現在は特定財源となる補助金等が無く、主に地方債などの起債により施設整備を行っています。こうした財政負担を減らすためには、利便性の向上を目的とする建替えを最小限とし、同時に現有施設の使用年数を延ばしていくことにより、建替えの回数を減らす必要があります。また、同年度に複数の建替えが重複しないよう計画を立て、財政負担を平準化する必要があると考えられます。

その他の施設

1 その他の施設一覧

No	施設名	施設種類	構造	階数	建築年度	床面積 (㎡)
1	赤城少年自然の家	青少年教育施設	RC	2	S49	2,673
2	赤城少年自然の家 (ボートハウス)	青少年教育施設	S	1	S49	520
3	児童文化センター	青少年教育施設	RC	2	H23	2,784
4	粕川出土文化財管理センター	文化財施設	S	2	H6	838
5	粕川歴史民俗資料館	文化財施設	RC	2	H10	642
6	前橋市総合教育プラザ	生涯学習センター	R・S	6	H9	7,971
7	図書館	図書館	RC	3	S49	4,765
8	適応指導教室かがやき	その他	RC	1	H9	406

平成 24 年 4 月現在

構造の RC は鉄筋コンクリート造、S は鉄骨造。

2 課題と取り組み

その他の施設は、赤城少年自然の家、図書館以外は比較的新しい建物であることから、緊急的な課題はありませんが、施設整備計画に「長寿命型改善事業」を位置づけて取り組んでいく必要があります。

赤城少年自然の家は、豊かな自然環境の中で集団宿泊訓練、自然体験活動、野外活動、体育活動を通じて心身ともに健全な青少年の育成を図ることを目的に設置された施設です。昭和 49 年に建築し、平成 15 年度に耐震補強と大規模改造を実施していますが、自然体験活動を目的とした同様な施設が他にあることから、施設のあり方を含めた施設整備を検討していく必要があります。

図書館については、建築後 37 年が経過しており、耐震補強も未実施の建物です。老朽化が著しく、毎年雨漏りが発生し修繕を行っていますが、根本的な解決とはなっていません。また、設備面（トイレ、給排水設備、非常用電源設備、空調設備等）の老朽化も著しく、毎年度修繕を行っている状況です。施設及び設備の老朽化や今後の維持管理経費が年々増加傾向であることを踏まえると、施設の維持が難しくなっており、大規模改造または建替えといった施設整備の方向性を検討する必要があります。

Ⅶ 教育施設の充実を目指して

教育施設は、子どもたちの学習・生活の場である学校や社会教養施設などがあり、地域コミュニティや防災の拠点として重要な役割を担う地域住民にとっては身近な公共施設です。

建物の長寿命化にあたっては、建物の老朽化を把握し、予防保全的な維持管理への転換が重要となります。現状では、日常的な保守点検や建築基準法、消防法などの法定点検を定期的に行っていますが、その結果を十分に活用しているとは言い難い状況です。今後は、そうした情報をデータベース化するなどし、建物の現状把握、さらには整備計画に反映していくことが求められます。

避難所機能の強化、バリアフリー化、さらには高効率照明や太陽光発電等の再生エネルギーの導入による省エネ化などの社会的要請に対応するため、施設整備に努めているところですが、こうした整備効果による検証を継続的に行うとともに、より効果的な整備手法など改善すべき点について整理し、長寿命化型改善事業を含めた整備計画に反映していくサイクルを確立していくことも必要となります。

施設の維持管理にかかるコストは、施設数や施設の延床面積などの施設保有量に比例します。

今後、一層厳しい財政状況が予想され、良好な状態で施設を維持管理していくためには、現状のサービスごとに施設を整備する「施設重視型」から、施設を複合化しながらもサービスを維持していく「機能重視型」への転換を進め、施設保有量を減らしていくことが有効と考えられます。

施設を複合化するメリットとしては、トイレやエレベーター等の設備、駐車場等を共用することによる土地等資源の有効活用やその維持管理コストの縮減が挙げられます。また、施設の複合化により生じた土地等の余剰財産を売却することで得られる収入を施設整備の財源としていくことも考えられます。

なお、施設の複合化にあたっては、教育施設の範囲にとどめるのではなく、その他の施設を含めて検討していく必要があります。そのためには、ニーズや各施設の現状を的確に捉え、全庁的に行っていく必要があります。

